

《 資 料 編 》

- 資料 1 平成 26 年度県立高校再編に関する検討会議委員名簿
- 資料 2 県立高校再編に関する検討会議設置要綱
- 資料 3 平成 26 年度県立高校再編に関する検討会議の検討経過
- 資料 4 県立高校再編計画の検証等に係る諸調査一覧
- 資料 5 県立高校再編前期実行計画及び後期実行計画の概要
- 資料 6 検証資料 1 「各学校の特色化・個性化の推進」の検証
- 資料 7 検証資料 2 「中高一貫教育校」の検証
- 資料 8 検証資料 3 「総合学科高校」の検証
- 資料 9 検証資料 4 「科学技術高校（新しいタイプの工業高校）」の検証
- 資料 10 検証資料 5 「総合産業高校」の検証
- 資料 11 検証資料 6 「総合選択制高校」の検証
- 資料 12 検証資料 7 「男女共学化の推進」の検証
- 資料 13 検証資料 8 「全日制高校の規模の適正化」の検証
- 資料 14 検証資料 9 「全日制高校の学校の統合」の検証
- 資料 15 検証資料 10 「全日制高校の学科の構成と配置の適正化」の検証
- 資料 16 検証資料 11 「フレックス・ハイスクールの設置及び
定時制・通信制高校の規模と配置の適正化」の検証

平成 26 年度 県立高校再編に関する検討会議 委員名簿

No.	委員氏名	職業・役職名等	備考
1	いがらし きよし 五十嵐 清	栃木県議会議員	
2	いわむら ゆきの 岩村 由紀乃	株式会社下野新聞社 教育支援部 部長	
3	おがわ ちえこ 小川 智恵子	栃木県 P T A 連合会理事 (那須町立那須高原小学校 P T A 会長)	
4	かめだ きよし 亀田 清	亀田産業株式会社取締役社長	
5	きむら なおと 木村 直人	栃木県高等学校校長会長 (栃木県立宇都宮女子高等学校長)	
6	くまだ ひろこ 熊田 裕子	栃木県 P T A 連合会理事 (下野市立南河内第二中学校 P T A 会員)	
7	くりはら たかし 栗原 隆史	栃木県教職員協議会長	
8	すか ひでゆき 須賀 英之	栃木県私立中学高等学校連合会副会長 (宇都宮短期大学附属中学校長・高等学校副校長)	
9	すずき しげなり 鈴木 重成	栃木県高等学校 P T A 連合会長 (栃木県立宇都宮高等学校 P T A 会長)	
10	そうとめ ゆきひこ 五月女 裕久彦	栃木県議会議員	
11	たかだ ともひろ 高田 智弘	栃木県高等学校教職員組合執行委員長	
12	たかはし まさひこ 高橋 正彦	栃木県小学校長会 (宇都宮市立桜小学校長)	
13	ながの まこと 長野 誠	栃木県総合教育センター所長	会長代理
14	ほんせ よしろう 伴瀬 良朗	栃木県町村教育委員会教育長会長 (塩谷町教育委員会教育長)	
15	ひとみ ひさき 人見 久城	宇都宮大学教授	会長
16	ひらの よしあき 平野 佳明	公募委員 (有)ライトハウスセミナー代表)	
17	みずこし ひさお 水越 久夫	栃木県都市教育長協議会長 (宇都宮市教育委員会教育長)	
18	もちだ てるよ 持田 光世	栃木県中学校長会 (宇都宮市立横川中学校長)	
19	よこやま あきこ 横山 明子	帝京大学教授	
20	わたなべ さつき 渡邊 早月	学校法人宇都宮メディア・アーツ専門学校理事長	

※ 敬称略、五十音順、平成 26 年 5 月 26 日現在。

県立高校再編に関する検討会議設置要綱

制定 平成 25 年 4 月 1 日

(設置の趣旨)

第 1 条 県立高校再編計画全体の進捗状況や成果等について検証するとともに今後の望ましい県立高校のあり方等を検討するため、県立高校再編に関する検討会議（以下「会議」という。）を設置する。

(委員)

第 2 条 会議の委員は、学識経験者、教育関係者及び公募委員のうちから、栃木県教育委員会教育長（以下「教育長」という。）が委嘱する。

(所掌事項)

第 3 条 会議は次の事項について検討するものとする。

- (1) 学区制度のあり方に関する事
- (2) 県立中学校の入学者選考のあり方に関する事
- (3) 県央以北の定時制・通信制のあり方に関する事
- (4) 県立高校再編計画全体の検証に関する事
- (5) 今後の県立高校のあり方に関する事
- (6) その他県立高校再編に関する事項のうち、教育長が必要と認める事項に関する事

(委員の任期)

第 4 条 委員の任期は、平成 28 年 3 月末日までとする。

(会長)

第 5 条 会議に、委員の互選により会長を置く。

- 2 会長に事故あるときは、会長があらかじめ指名する委員がその職務を代理する。

(招集等)

第 6 条 会議は、会長が招集し、会長が議長となる。

- 2 会議は、必要と認めるときは、委員以外の者の出席を求め、意見を聴くことができる。

(庶務)

第 7 条 会議の庶務は、栃木県教育委員会事務局総務課において処理する。

(雑則)

第 8 条 この要綱に定めるもののほか、会議の運営に関し必要な事項は、教育長が別に定める。

附 則

この要綱は、平成 25 年 4 月 1 日から施行する。

平成 26 年度 県立高校再編に関する検討会議の検討経過

回	開催日	検討事項等
第 4 回検討会議	平成 26 年 5 月 26 日	1 平成 26 年度協議事項及びスケジュール等説明 2 県立高校再編計画全体の概要と進捗状況等の確認 (1) 県立高校再編計画全体の概要について ① 高校再編の基本的な考え方及び 魅力ある県立高校づくりについて ② 活力ある県立高校づくり及び 関連する諸制度の整備について (2) その他 ① 再編新校の視察について
再編新校視察①	平成 26 年 6 月 17 日	1 再編新校視察（宇都宮東高・鹿沼南高・学悠館高） (1) 各校の再編の概要等説明 (2) 校内見学（授業及び施設見学） (3) 説明及び質疑応答（再編前後の変化、学校の近況等）
再編新校視察②	平成 26 年 6 月 23 日	1 再編新校視察（佐野東高・佐野松桜高・宇都宮工業高） (1) 各校の再編の概要等説明 (2) 校内見学（授業及び施設見学） (3) 説明及び質疑応答（再編前後の変化、学校の近況等）
第 5 回検討会議	平成 26 年 7 月 23 日	1 「魅力ある県立高校づくり」の進捗状況及び成果等の検証 (1) 各学校の特色化・個性化の推進の検証 (2) 新しいタイプの学校の検証 ① 中高一貫教育校の検証 ② 総合学科及び専門学科教育に係る 新しいタイプの学校の検証 ア) 総合学科高校の検証 イ) 科学技術高校(新しいタイプの工業高校)の検証 ウ) 総合産業高校の検証 エ) 総合選択制高校の検証
第 6 回検討会議	平成 26 年 10 月 17 日	1 報告書骨子案の検討 2 県立高等学校再編計画の進捗状況と成果等の検証 (1) 男女共学化の推進の検証 (2) 活力ある県立高校づくりの検証 ① 全日制高校の規模と配置の適正化の検証 ② フレックス・ハイスクールの設置及び 定時制・通信制高校の規模と配置の適正化の検証
第 7 回検討会議	平成 27 年 1 月 29 日	1 平成 26 年度報告書(案)の検討 2 次年度の協議事項等について

※第 1 回～第 3 回検討会議は平成 25 年度に開催。

県立高校再編計画の検証等に係る諸調査一覧

実施時期	調査対象	調査方法	主な調査内容
平成23年8月～ 平成24年2月	全日制県立高校（全61校）	アンケート 聴き取り	特色ある学校づくりの取組 高校再編全般 等
平成24年6～7月	市町立中学校（全161校）	アンケート	高校再編の影響 高校再編に対する評価、要望 等
平成24年8～9月	再編新校の地元の 市町立中学校（計24校） ・宇都宮地域2校 ・日光地域2校、鹿沼地域2校 ・小山地域2校、栃木地域3校 ・佐野地域2校、足利地域2校 ・芳賀地域2校 ・那須地域2校 ・塩谷地域3校、南那須地域2校	聴き取り	高校再編の影響 高校再編に対する評価、要望 等
平成25年2月	市町立小学校5年生の保護者 （計30校約900名） ・県央、県南、県北各10校を無作為抽出。1校1学級分を標本。 県央＝河内5、上都賀2、芳賀3 県南＝下都賀5、安足5 県北＝塩谷・南那須5、那須5	アンケート	中高一貫教育校への関心、期待 県立中学校入学者選考方法 等
平成25年2～3月	中高一貫教育校の地元の 市立小中学校（計9校） ・宇都宮市立中学校1校 ・宇都宮市立小学校2校 ・佐野市立中学校1校 ・佐野市立小学校2校 ・矢板市立中学校1校 ・矢板市立小学校2校	聴き取り	中高一貫教育校への関心 中高一貫教育校設置の影響 等
平成26年6月	新しいタイプの学校の在校生 （計9校約1700名） ・中高一貫教育校290名 宇都宮東高3年生 佐野高3年生 ・総合学科高校328名 小山城南高3年生 黒磯南高2年生 ・科学技術高校317名 宇都宮工業高3年生 ・総合産業高校168名 小山北桜高3年生 ・総合選択制高校552名 高根沢高3年生 足利清風高3年生 鹿沼南高3年生	アンケート	高校の志望理由 教育内容等への理解、意識 学校生活への満足度 等

○その他の調査 「再編新校への聴き取り調査(平成26年6月)」

県立高校再編前期実行計画及び後期実行計画の概要

◇ 新しいタイプの学校の設置

学校種	前期実行計画			後期実行計画			新しいタイプの学校数							
	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	再編前	設置数	再編後	
中高一貫教育校			宇都宮東高	佐野高				矢板東高				3	3	
総合学科高校		小山城南高								黒磯南高	4	2	6	
科学技術高校		宇都宮工業高(前期計画中に施設の整備に着手)						宇都宮工業高				1	1	
総合産業高校					小山北桜高							1	1	
総合選択制高校		高根沢商業高 →高根沢高		(足利西高 足利商業高 →足利清風高)	(栗野高 鹿沼農業高 →鹿沼南高)							3	3	
フリースクール		学悠館高										1	1	
		県央以北の設置校(前期計画中に施設の整備に着手)												
		県央以北の設置校(再編計画期間中に施設の整備に着手) →計画実施を見送り												

◇ 男女共学化の推進

項目	前期実行計画			後期実行計画			男女別学校数						
	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	再編前	共学化	再編後
男女共学化		小山城南高 小山高(普)	足利西高 (足商高と統合)	烏山高 (烏山女子高 →烏山高)		宇都宮東高	佐野高 佐野女子高 →佐野東高				18	7	11

※《再編後の別学校》男子校 宇都宮高、栃木高、足利高、真岡高、大田原高
女子校 宇都宮女子高、宇都宮中央女子高、栃木女子高、足利女子高、真岡女子高、大田原女子高 計5校
計6校

◇ 全日制高校の規模と配置の適正化

項目	前期実行計画			後期実行計画			全日制高校数							
	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	再編前	統合数	再編後	
学校の統合	(足尾高 日光高※ →日光明峰高 芳賀高 益子高※ →益子芳星高)	(藤岡高 栃木南高※ →栃木翔南高 (喜連川高 氏家高※ →さくら清修高)	(足利西高 足利商業高※ →足利清風高)	(烏山高* 烏山女子高 →烏山高)	(栗野高 鹿沼農業高※ →鹿沼南高)			(田沼高 佐野松陽高※ →佐野松桜高 (塩谷高 矢板高※ →矢板高)				68	9	59

※の校舎等を使用 *の校舎等を主に使用

◇ 定時制・通信制高校の規模と配置の適正化

項目	前期実行計画		
	H17	H18	H19
定時制高校 (学悠館高に統合)		(小山高、栃木高 佐野高、足利高)	
通信制高校 (学悠館高に移設)	宇都宮高 (定員の一部)		
			H21

※《現在(H26)の定時制高校》
宇都宮工業高、宇都宮商業高、鹿沼商工高、学悠館高、足利工業高、
真岡高、大田原東高、矢板東高 計8校

※《現在(H26)の通信制高校》
宇都宮高、学悠館高 計2校

検証資料 1 「各学校の特色化・個性化の推進」の検証

観点① 各学校は果たす役割や育成する生徒像を明らかにしているか。

1-1【高校再編による進路指導や生徒の受検動向の変化(H24中学校対象アンケート結果)】

「変化があった」と回答した102校(63%)を対象に「変化の具体的内容」について再質問。

	当てはまる、 大いに当てはまる	あまり当てはまらない、 全く当てはまらない	わからない
○高校選びの際、学校の特色などを参考にする生徒が増えた	84校 (82%)	17校 (17%)	1校 (1%)
○進路指導に当たり、学校のタイプや特色をこれまで以上に重視するようになった	71校 (70%)	30校 (30%)	1校 (1%)
○県立高校のPR活動が盛んになり、進路情報が質量ともに充実した	60校 (59%)	42校 (41%)	

1-2【PR活動に関する意見(H24中学校対象アンケート結果)】 ※自由記入欄(高校再編全般についての意見、要望等)より

○総合学科への転換等による教育課程の変化を、生徒や保護者に分かりやすく説明できる資料を随時提示して欲しい。
○新しいタイプの学校や学科の特色等が生徒や保護者になかなか周知されない。一日体験学習だけでなく可能な範囲で、もっと保護者や生徒が知る機会や手段があるとよい。例えば、説明会を増やしたり、高校ホームページの充実など。

観点② 各学校は創意と工夫に富んだ教育活動により、特色化・個性化を推進しているか。

1-3【学校の特色化に向けた主な取組(H23高校対象アンケート結果)】 ※回答は自由記述

回答数	分類	特に多かった回答内容	回答の割合が高い校種
44校 (72%)	進路指導	キャリア教育の充実に関する取組 (高大連携やインターンシップ等)	大規模校
34校 (56%)	連携交流	地域行事への参加や学校開放を通しての交流、 小中学校等との交流、福祉施設への訪問など	専門高校、小規模校、 就職率等の高い普通系高校
33校 (54%)	学習指導	授業の改善、少人数・学習習熟度別授業、課外授業など	大学・短大進学率の高い 普通系高校
26校 (43%)	行事・部活動		大学・短大進学率の高い 普通系高校、男子校
19校 (31%)	特色ある教育	国際理解教育、理数教育、教養教育、福祉教育など	小規模校、女子校

1-4【各校の特色化推進に向けた県の支援事業の指定校数の推移】

事業名	取組内容	H21	H22	H23	H24	H25	H26
高校教育活性化プラン事業 (H21～23)	とちぎの誇れる人材育成プラン	4	6	4			
	魅力ある学校づくりプラン	4	4	4			
県立高校未来創造推進事業 (H24～29)	進路実現プロジェクト				4	12	16
	地域資源活用プロジェクト				4	8	13
	コミュニケーション力育成プロジェクト				1	2	3
	サイエンスドリームプロジェクト				5	6	6
	グローバル人材育成プロジェクト				1	2	5
	ICTプレミアムプロジェクト						2

※高校教育活性化プラン事業の指定期間は3年間、2年間、1年間 県立高校未来創造推進事業は3年間

1-5【高校教育改革に関する国の指定事業実践校】

スーパーサイエンスハイスクール事業	宇都宮高(H15～19)、宇都宮女子高(H20～24、25～29) 栃木高(H24～28)、足利高(H24～28)
スーパー・イングリッシュ・ランゲージ・ハイスクール事業	宇都宮北高(H15～17)
伝統文化教育実践事業	足利南高(H17～19)、栃木工業高(H22～23)

1 「各学校の個性化・特色化の推進」の検証

1-6【普通科における教育課程の工夫の状況】

	普通科 設置校数	3年次の類型※1			専門学科の科目			学校設定科目※2		
		設置校数	設置率	1校平均	開設校数	開設率	1校平均	開設校数	開設率	1校平均
H17	44校	39校	88.6%	3.2類型	35校	79.5%	3.7科目	9校	23.1%	2.8科目
H26	38校	35校	92.1%	3.1類型	32校	84.2%	4.2科目	22校	57.9%	4.0科目

※1【類型】進路希望や興味・関心などに共通性のある生徒が、系統的に学習できるよう教科・科目を配列した

教育課程の型。文系、理系の他、スポーツ健康(日光明峰)、福祉(壬生)、生活文化(益子芳星)など。

※2【学校設定科目】学習指導要領で定められている科目以外に、教育上の必要に応じて学校独自で設定する科目。

科学技術A(宇都宮清陵)、環境(壬生)、日光学(日光明峰)、陶芸(益子芳星)、実験基礎(宇都宮女子)など。

1-7【新しいタイプの学校数及び学級数(平成15年度及び25年度)】※

学校種	H15(再編前)			H25(再編後)		
	校数	学級数	校名(○は学級数)	校数	学級数	校名(○は学級数)
総合選択制 専門高校	6	36	宇都宮白楊⑦、矢板⑤、 佐野松陽⑤、真岡北陵⑥、 小山北桜⑥、那須清峰⑦	5	29	宇都宮白楊⑦、矢板⑤、 真岡北陵⑤、那須清峰⑥、 佐野松桜⑥
総合学科高校	4	25	氏家⑦、今市⑦、 足利南⑤、茂木⑥	6	30	さくら清修⑥、今市⑤、足利南⑤、 茂木⑤、小山城南⑤、黒磯南④
中高一貫教育校				3	12	宇都宮東④、佐野④、矢板東④
科学技術高校				1	8	宇都宮工業⑧
総合産業高校				1	5	小山北桜⑤
総合選択制高校				3	15	高根沢⑤、足利清風⑤、鹿沼南⑤
フレックス・ハイスクール				1	6	学悠館⑥
計	10	61		20	105	

※新しいタイプの学校とは、多様で柔軟な高校教育の推進のために、教育課程などに様々な特色づけや工夫がなされている学校のこと。再編計画以前に総合選択制専門高校(平成3年度の宇都宮白楊高校への導入が最初)と総合学科高校(平成6年度の氏家高校への導入が最初)を設置していた。

1-8【旧学区別の新しいタイプの学校への進学者数(平成15年度及び25年度)】

	宇都宮	上都賀	下都賀	安足	芳賀	那須	塩・南那	合計
総合学科高校	51	192	190	188	195	171	189	1,176
科学技術高校	145	48	90		10	6	23	322
総合産業高校	14		180	2	2			198
総合選択制高校	92	165	12	193	3		131	596
総合選択制専門高校	279	22	34	226	129	276	160	1,126
フレックス・ハイスクール	31	28	107	44	1	1		212
中高一貫教育校(高入生)	45		14	43		2	7	111
中高一貫教育校(中入生)	86	3	17	91	4	3	5	209
H25 新しいタイプ 計	743	458	644	787	344	459	515	3,950
H25 割合※	28%	34%	21%	51%	32%	26%	42%	31%
H15 新しいタイプ 計	341	291	272	382	418	329	411	2,444
H15 割合※	11%	17%	7%	19%	29%	16%	24%	16%

学校種ごとの人数は平成25年度のもの。中高一貫教育校(中入生)の人数は平成22年度の附属中入学者数。

※ 割合は、県立高校(全日制・定時制・通信制)進学者数に占める新しいタイプの学校進学者数の割合。

1-9【各高校の特色化の推進について(H24中学校対象アンケート結果)】

	宇都宮	上都賀	下都賀	安足	芳賀	那須	塩南那	合計	割合
評価する、どちらかといえば評価する	22	18	29	14	13	17	7	120	74%
どちらともいえない	6	7	4	7	4	5	5	38	24%
どちらかといえば評価しない、評価しない						1	2	3	2%

1-10【県立高校の特色化に関する意見(H24中学校対象アンケート結果)】 ※自由記入欄より

- 高校の特色化が推進され、保護者や生徒の関心が高まった。
- 様々なタイプの学校の違いが分かりにくい。
- 特色選抜に変わる中で、各校の特色がより明確になると期待している。

検証資料 2 「中高一貫教育校」の検証

観点① 地域バランスは適切か。学校選択枝の拡充となっているか。

2-1【県立中学校の地区別の出願者数 等(平成26年度)】

	宇都宮	上都賀	下都賀	安 足	芳 賀	那 須	塩・南那	県外等	計
宇都宮東高附属中	334	14	49		24	5	25	7	458
佐野高附属中			55	213	1			1	270
矢板東高附属中	2	1			1	122	122		248
計(a)	336	15	104	213	26	127	147	8	976
H25県内 小6生(b)	4, 910	1, 674	4, 713	2, 524	1, 375	2, 134	1, 552	—	18, 882
割合(a/b)	6. 8%	0. 9%	2. 2%	8. 4%	1. 9%	6. 0%	9. 5%	—	5. 2%

観点② 6年間の計画的・継続的な教育、個性や創造性、リーダーシップ等を育む特色ある教育が展開されているか。

2-2【中高教員が授業の乗り入れを行っている教科(平成26年度)】(H26当該校への聴き取り調査結果)

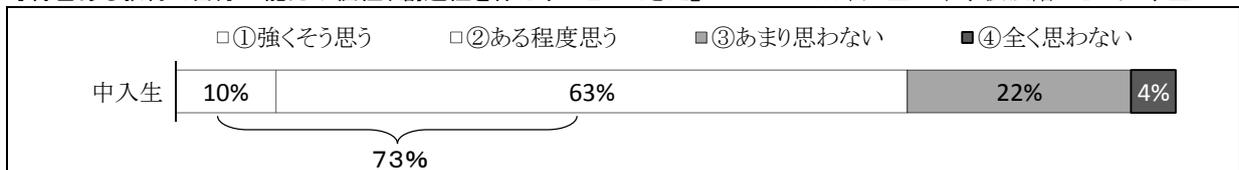
高校教員が中学校の授業を担当している教科	国語・社会・数学・理科・保健体育・美術・音楽・技術家庭・英語・他
中学校教員が高校の授業を担当している教科	公民・数学・保健体育・英語・家庭・情報

2-3【各校で展開している特色ある教育活動】(H26当該校への聴き取り調査結果)

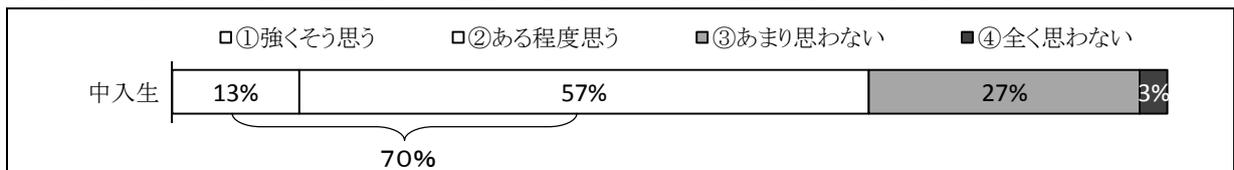
分類	主な内容
リーダーシップの育成	リーダー育成プロジェクト、中高合同行事 等
科学的リテラシー育成	中大連携講座、高大連携講座、サイエンスキャンプ 等
グローバル人材育成	英会話スパイラル、イングリッシュキャンプ、海外研修、海外修学旅行 等
教養教育	朝の読書、中学生法律教室、芸術鑑賞会、伝統文化教室、歌舞伎・オペラ鑑賞、茶華道体験 等
キャリア教育	中大連携、高大連携、社会体験、農業・林業体験、大学見学、進路講演会、職業人講話 等
中高合同の学校行事	体育祭、球技大会、合唱コンクール、学校祭、マラソン大会、夏山ハイキング、芸術鑑賞会 等
高1ギャップの解消	高校へのアプローチ(中3生)
部活動の中高連携	中3生は部活引退後に高校の部活動へ参加可能。吹奏楽部など中高合同で活動する部もある。中高ともに設置されている部活動は中高教員が協力継続して指導する。

【在校生の意識 (H26在校生対象アンケート結果)】

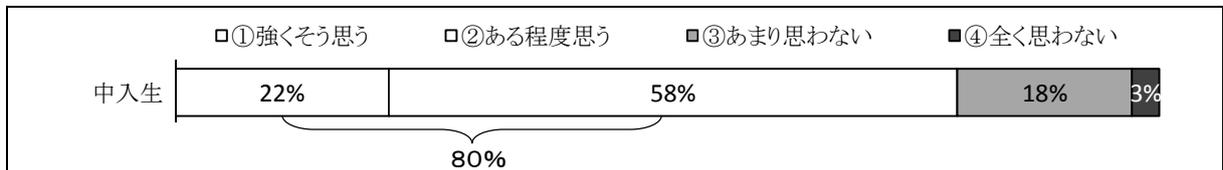
2-4 『特色ある教育で自分の能力や個性、創造性を伸ばすことができた』 ※中入生＝中学校段階からの入学生



2-5 『中学から高校までの幅広い年齢集団での活動によりリーダーシップや社会性などが高められた』



2-6 『学習活動が充実しており、学力を伸ばすことができた』



2 「中高一貫教育校」の検証

2-7 『中高一貫教育校の魅力や良さ、今後改善すべき点について』(自由記述)

- 6学年が一緒に行う体育祭や文化祭は、附属中学生にとっては先輩の背中を見て、こういう高校生になろうと思うし、高校生にとっても6歳までの子のリーダーはなかなかできない貴重な経験。
- 中学生の早い段階から高校生を見ることで高校生活をイメージしやすかった。学習や行事の時に意欲や、やる気が出た。すごく刺激になった。高3生の頑張りを早くから感じられる。大学受験を中学の頃から意識できた。
- 部活動で6学年が一緒に活動し、お互いを高めあえること。
- 中学校から受験を経て入学してくるので、皆ある程度学習意欲があり、高いレベルの中での学習ができています。
- 高校の授業内容の先取りをした方が良い。
- 学校全体の行事は、どうしても高校生が主体になってしまう。中学生の活躍の場を増やすべき。

2-8【中高一貫教育に関する当該校教員の意見】(H26当該校への聴き取り調査結果) ※高入生＝高校段階からの入学生

- 中入生が体験した学習活動については、可能な限り高入生にも追体験させるよう配慮している。
- 高校段階からの入学生もいるため、6年間の継続的な教育に制限がある。

観点③ 高校受験がないことによるメリットはいかされているか。

2-9【当該校教員の意見及び部活動等の実績】(H26当該校への聴き取り調査結果)

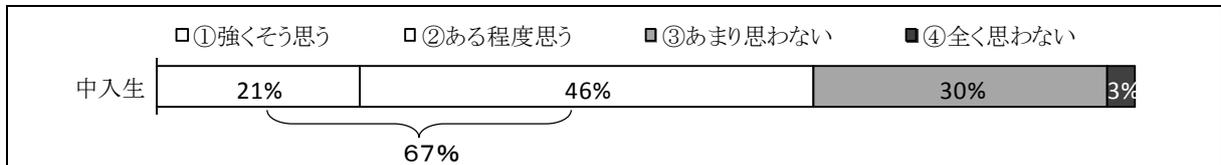
- 高校受験による学習や部活動の断絶がないため、発展的な学習の取組や継続的な部活動指導ができることで、性急な結果を求めることなく落ち着いた学校生活を送らせることができる。
- 創造アイデアコンテスト全国大会でロボコン大賞受賞、第1回科学の甲子園ジュニア大会出場 等

【在校生の意識 (H26在校生対象アンケート結果)】

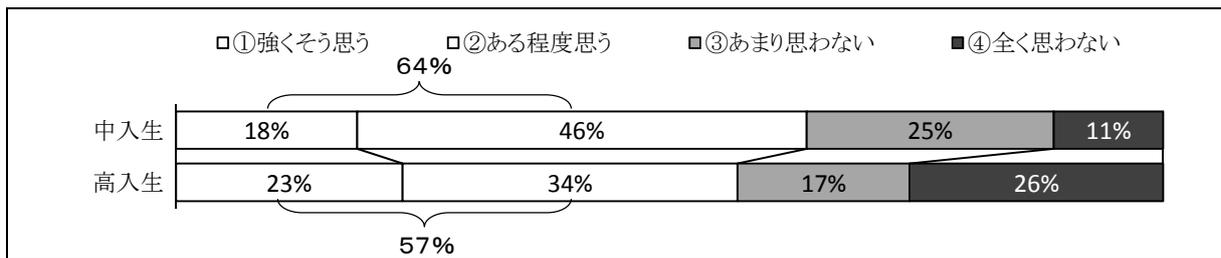
2-10 『中高一貫教育校の魅力や良さについて』(自由記述)

- 高校受験がないので、中学3年の時に自分の興味がある勉強ができた。幅広いことに興味を持てた。
- 中学3年の時、ゆとりがありチャレンジできる(中学3年の時に数学オリンピックに出場しました)。

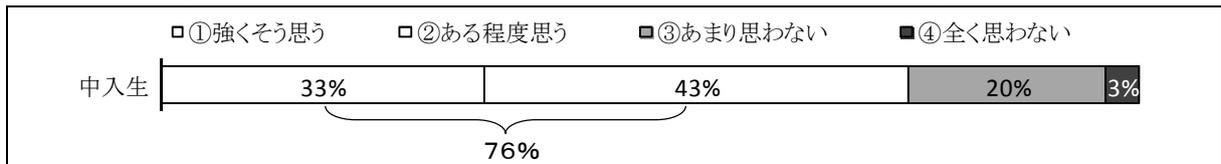
2-11 (中入生のみ) 『高校受験がないゆとりある時間を自分の能力や個性の伸長に使うことができた』



2-12 『部活動が充実しており、積極的に取り組むことができた』



2-13 (中入生のみ) 【高校受験がなかったため、中学3年生の頃、学習意欲が低下してしまった】



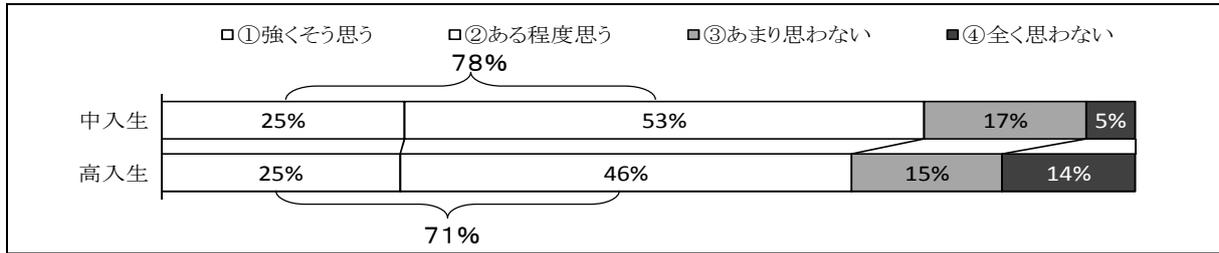
2-14 【いわゆる「中だるみ」への懸念について】(『中高一貫教育制度に関する主な意見等の整理』(H23中央教育審議会初等中等教育分科会 学校段階間の連携・接続等に関する作業部会)より)

総じて、生徒の理想や目的意識・モチベーションを6年間にわたっていかに育てていくかが重要であり、それがうまく行かない場合には「中だるみ」が生じるが、学校を運営する立場にある教員の側はこれを緊張感の少なさとして指導上の重要課題と捉える一方、生徒の側はゆとりや中だるみをむしろ自分を再構築する時期として積極的に評価する向きもある。「中だるみ」を単に学習意欲の低下ではなく、まさに中等教育段階で迎える重要な思春期の心の葛藤や不安定さと捉えるべきとも考えられる。

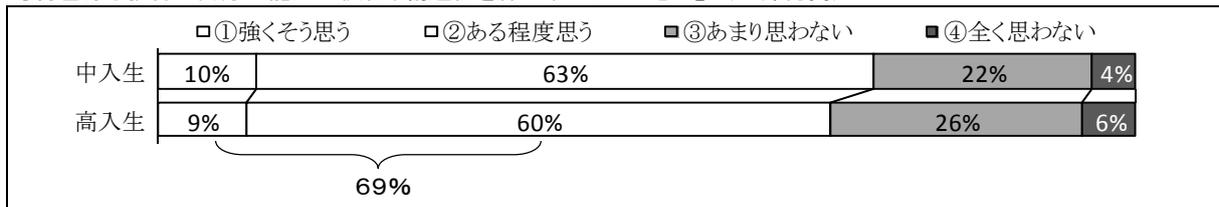
観点④ 併設型によるメリットはいかされているか。

【在校生の意識（H26在校生対象アンケート結果）】

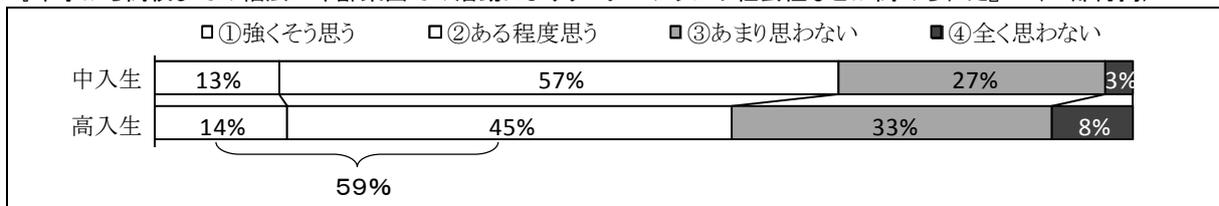
2-15 『中学段階からの入学者と高校段階からの入学者で、学習や部活動、学校行事など様々な場面で刺激し合い、切磋琢磨することができた』



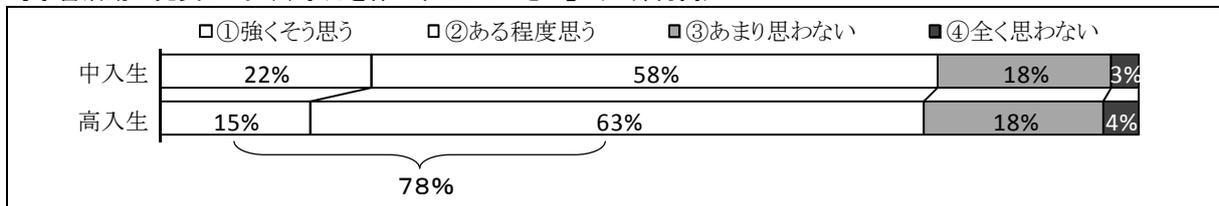
2-16 『特色ある教育で自分の能力や個性、創造性を伸ばすことができた』（一部再掲）



2-17 『中学から高校までの幅広い年齢集団での活動によりリーダーシップや社会性などが高められた』（一部再掲）



2-18 『学習活動が充実しており、学力を伸ばすことができた』（一部再掲）



2-19 『中高一貫教育校の魅力や良さについて』（自由記述）

<中入生>

- 中入生との仲が微妙でも高入生という新しい友達ができる。
- 中学校から一緒の人とは深く仲良くなれる。また、高入生とも新鮮な気持ちで親しくすることができる。

<高入生>

- 中学生の手本となるように普段から意識するようになり、高3になると6学年をまとめるということを考え、その力がつく。高学年としての責任を感じつつ生活ができ身が引き締まる。上級生としての意識が強くなる。
- 他の高校以上にリーダーシップを高められる。
- 部活動など幅広い年代の人と話したり活動できることによって、様々な意見を取り入れることができる。

2 「中高一貫教育校」の検証

2-20【中高一貫教育校の高校受検倍率等の推移】 附属中からの高校内部進学は、宇東高はH22、佐高はH23から

	宇都宮東高					佐野高			
	H22	H23	H24	H25	H26	H23	H24	H25	H26
特色選抜の受検倍率※ (H25以前は推薦入学)	—	—	—	—	1.64	0.69	0.88	1.25	0.87
一般選抜の受検倍率 (H25以前は学力検査)	1.19	1.27	1.27	1.43	—	0.67	1.05	0.95	0.93

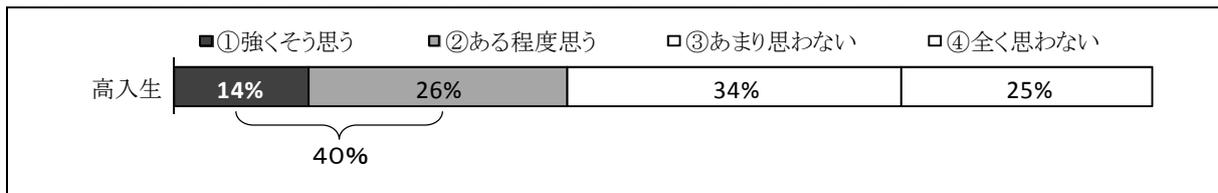
※平成25年度以前は推薦入学の受検倍率を示す（宇都宮東高は実施せず）。平成26年度入学者選抜から特色選抜を導入（中高一貫教育校に係る併設型高校については、特例として募集定員から内部進学による入学内定者を除いた定員の全部を合格内定者とする事ができる）。平成26年度の佐野高は特色選抜で募集定員が満たなかったため一般選抜を実施。

2-21【中高一貫教育校に関する意見（H24中学校対象アンケート及び聴き取り調査結果）】

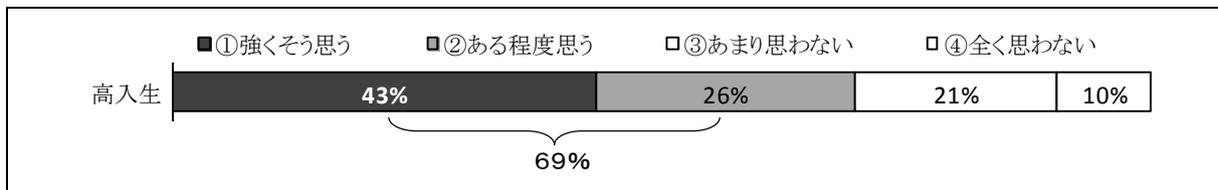
- 高入生の募集定員(55人)は少なすぎて受検時のリスクが大きく受検者が激少した。希望者がいないわけではないので定員増を望む。
- 高入生の定員減の影響で受検者が激減した。地元中学校としては深刻な事態である。魅力はあるので定員増なら希望者も増えるのではないかと。また、大学進学実績が向上すれば、受検動向は大きく変わるのではないかと。
- 高入生には、多数の中入生の中に途中から入ることに伴う入学後の人間関係への不安（とけ込めるか）や、学力面の不安（勉強についていけるか）がある。

【在校生の意識（H26在校生対象アンケート結果）】

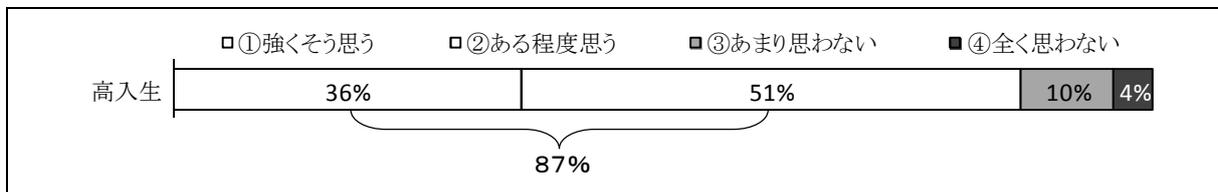
2-22（高入生のみ）『高校段階からの募集定員が少なく、受検することへの心理的負担が大きかった』



2-23（高入生のみ）『受検の際、附属中学校からの進学者にとけ込めるかなど、入学後の人間関係への不安が大きかった』



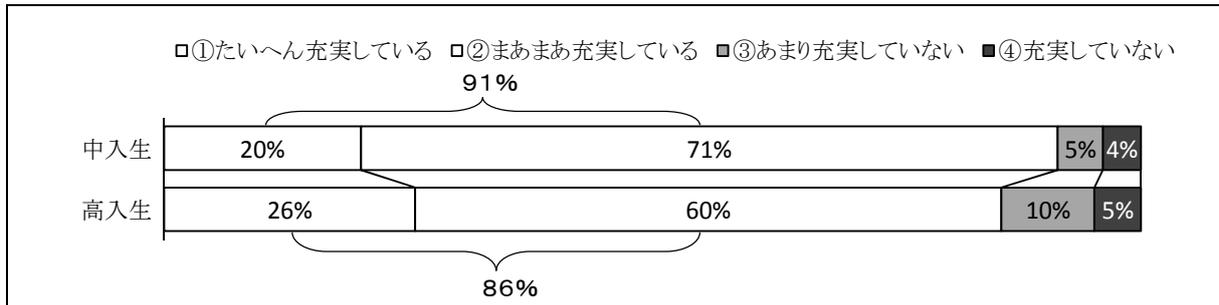
2-24（高入生のみ）『入学後、附属中学校からの進学者にとけ込めるなど、中高一貫教育校の学校生活に順応できましたか』



観点⑤ 児童・生徒・保護者のニーズ、満足度は高いか。

【在校生の意識（H26在校生対象アンケート結果）】

2-25『学校生活は充実していますか』



2-26【県立中学校の募集定員と出願倍率の推移】

	定員	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26
宇都宮東高附属中	105	9.20	6.62	6.01	6.01	5.86	5.46	4.76	4.36
佐野高附属中	105	—	4.08	3.22	3.10	3.52	3.08	2.67	2.57
矢板東高附属中	70	—	—	—	—	—	3.81	3.81	3.54

2-27【中高一貫教育校に対する生徒・保護者等の関心(H25中学校対象聴き取り調査結果)】

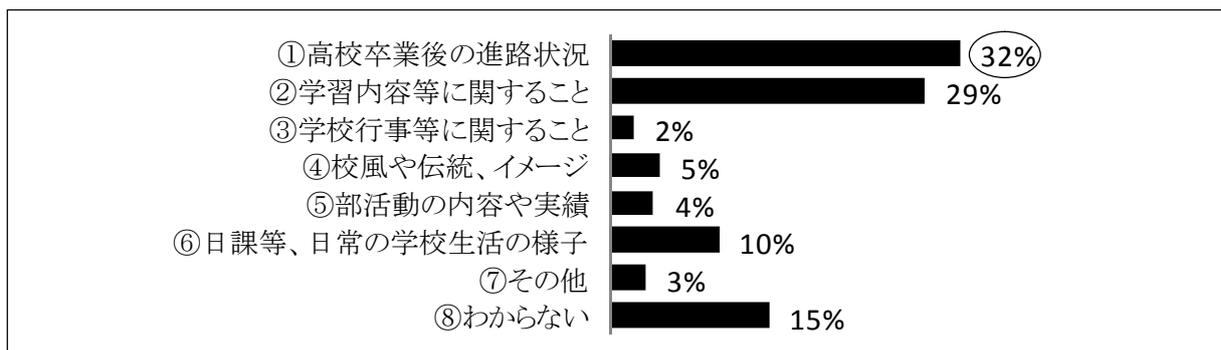
- 保護者や生徒、関係者は高校卒業後の進学実績の変化に注目している。
- 高校卒業後の進路実績の変化に注目している県民も多いと思われる。

2-28【中高一貫教育校に対する児童・保護者等の関心(H25小学校対象聴き取り調査結果)】

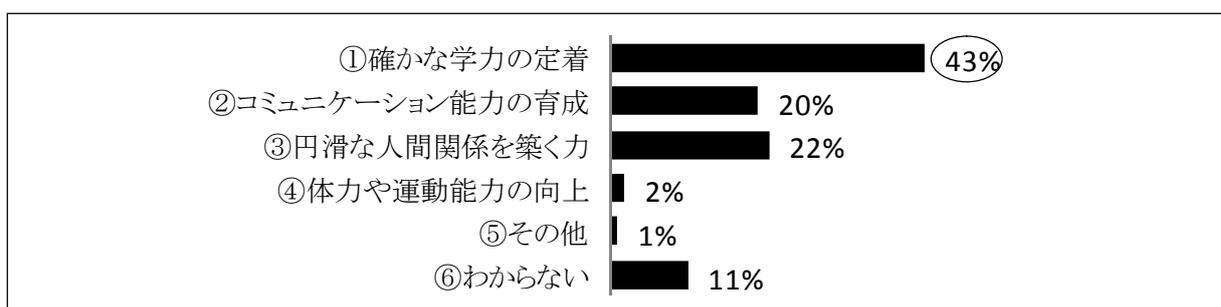
- 高校受検がないことをメリットと捉えていたり、高校卒業後の進学先に興味を持っていたりする保護者が多い。
- 6年間で学力格差が広がるのではないかという不安があり、その点でも高校卒業後の進学実績に注目している。
- サッカーや野球など部活動に励みたいと考える児童(男子)は市町立中学校を選択する傾向が見られた。

【中高一貫教育校に対する保護者の関心(H24小学5年生の保護者対象アンケート結果)】

2-29『県立中学校について、特に関心があるのはどんなことか。(1つ選択)』



2-30『「創造力とリーダー性の育成」に加えてどんなことを期待しているか。(1つ選択)』



検証資料 3 「総合学科高校」の検証

観点① 地域バランスは適切か。全ての地域で生徒の選択肢になっているか。

3-1【旧学区別の総合学科高校への進学者数等(平成25年度)】

	設置地区	設置年度	宇都宮	上都賀	下都賀	安 足	芳 賀	那 須	塩・南那	合 計
今市高	上都賀	H9	2	190					6	198
小山城南高	下都賀	H18	2	2	187	3	2			196
足利南高	安 足	H12			2	185				187
茂木高	芳 賀	H15			1		193		1	195
黒磯南高	那 須	H25						156	4	160
さくら清修高 (氏家高)	塩・南那	H18 (H6)	47					15	178	240
計			51	192	190	188	195	171	189	1,176

観点② 生徒や社会のニーズに合った多様な系列・科目が開設されているか。

3-2【小山城南高校の再編の概要(= 総合学科高校への転換)】

普通科高校(～H17)			総合学科高校(H18～)		
【学科】	【類型】	【募集学級数】	【学科】	【系列(科目群)】	【募集学級数】
普通科	I (普通/国際教養 /福祉教養) II (文系/理系)	6学級	総合学科	言語・社会/自然科学 生活・福祉/健康科学 芸術	5学級
【教育課程 等 (平成17年度入学生)】 ○2・3年生は興味・関心や進路希望に応じて、5類型に分かれ学習 ○Iは就職・専門学校向けで普通は化学I、国際教養は外国語、福祉教養は福祉の科目を履修 ○II文系・理系は大学進学向けで数IIを履修 【※衛生看護科は平成14年度募集停止】			【教育課程 等 (平成26年度入学生)】 ○1年生は「産業社会と人間」を全員が履修 ○2・3年生は5系列の普通科目及び専門科目から興味・関心や進路希望に応じて選択履修 ○看護及び福祉の科目を開設 ○多様な学校設定科目(環境、中国語、創作書道、マナー研究など)を開設		

3-3【黒磯南高校の再編の概要(= 総合学科高校への転換)】

普通科・普通科専門学科併置校(～H24)			総合学科高校(H25～)		
【学科】	【類型】	【募集学級数】	【学科】	【系列(科目群)】	【募集学級数】
普通科	文理A 文理B(文/国文/理)	3	総合学科	国際・語学/人文・社会 自然科学/生活・芸術	4学級
英語科		1			
【教育課程 等 (平成24年度入学生)】 ○普通科2・3年生は興味・関心や進路希望に応じて4類型に分かれ学習 ○文理Aは就職・専門学校向けで、家庭及び情報の科目を履修 ○文理Bは大学進学向け			【教育課程 等 (平成26年度入学生)】 ○1年生は「産業社会と人間」を全員が履修 ○2・3年生は4系列の普通科目及び専門科目から興味・関心や進路希望に応じて選択履修 ○専門教科英語の科目を多数開設 ○多様な学校設定科目(栃木の文学、仮名の書、韓国語、ビジネス英語など)を開設		

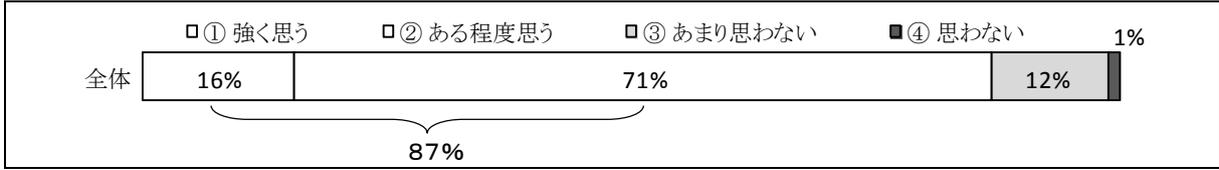
3-4【総合学科高校の学級数と開設科目数等(平成26年度入学生)】

	今 市	小山城南	足利南	茂 木	黒磯南	さくら清修	平 均	普通科平均※
募集学級数	5	5	5	5	4	6	5.0	5.0
設置系列数	5	5	5	5	4	5	4.8	—
開設科目数	102	126	83	112	101	92	102.8	40.7
内 訳	普通(共通)科目数	61	66	41	66	52	58.0	36.5
	専門科目数	39	58	40	44	37	42.7	3.2
	学校設定科目数	21	44	15	25	31	26.5	0.5

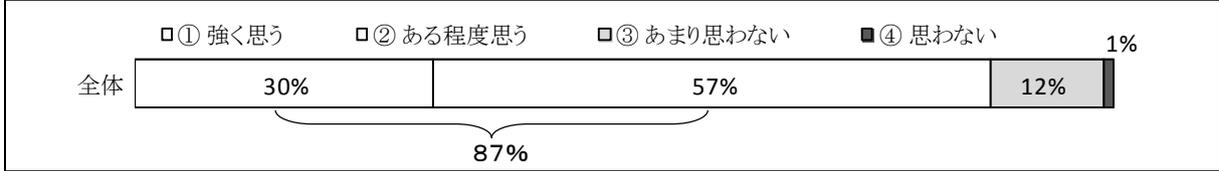
※参考として鹿沼東(5学級)、小山西(5学級)、佐野東(6学級)、真岡(5学級)、黒羽(4学級)、烏山(5学級)の平均を示す。

【在校生の意識（H26在校生対象アンケート結果）】

3-5 『本校の系列や開設科目は私の進路目標の実現や興味・関心に合っていた』



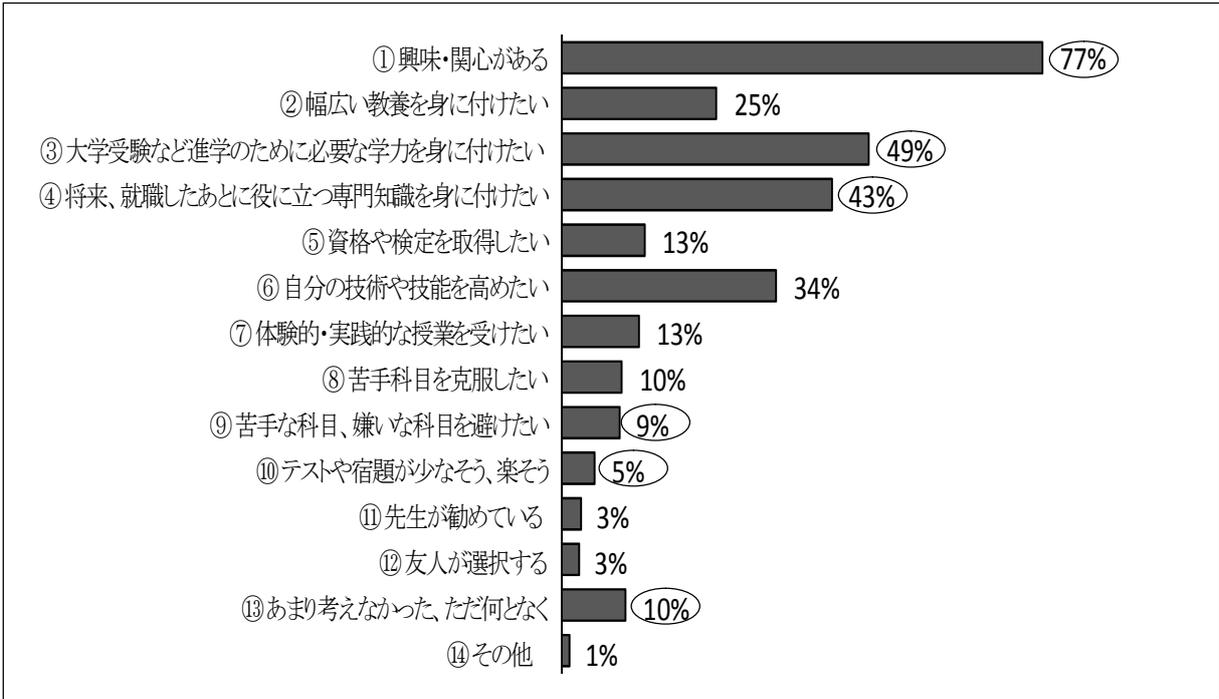
3-6 『総合学科は就職から進学まで様々な進路に対応できる学科である』



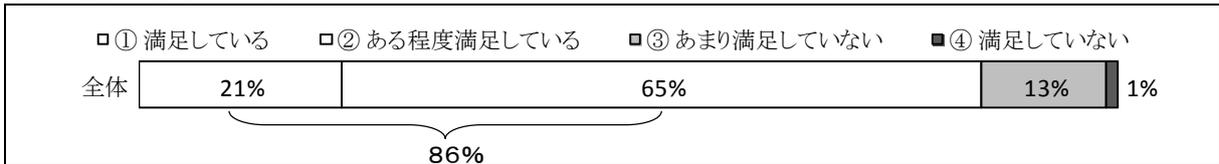
観点③ 生徒は適切に科目選択を行っているか。

【在校生の意識（H26在校生対象アンケート結果）】

3-7 『どのような考えで、科目選択を行いましたか(3つまで回答)』



3-8 『科目選択に満足していますか』



3 「総合学科高校」の検証

観点④ 適切にキャリア教育が展開されているか。進路意識は養われているか。

3-9【総合学科の原則履修科目「産業社会と人間」の主な内容】(各校の「産業社会と人間」年間計画より)

- ・ライフプラン作成及び発表会 ・職業人インタビュー及び発表会 ・職業研究 ・社会人講話
- ・スクールインターンシップ及び発表会 ・大学講座 ・進路講演会 ・各教科、科目の履修計画作成 等

【在校生の意識 (H26在校生対象アンケート結果)】

3-10 『「産業社会と人間」など総合学科での学びを通して進路意識が高まった』



3-11【キャリア教育や体験的な学習の主な内容】

- ・インターンシップ ・幼稚園保育園実習 ・企業講話 ・地元若手企業家とのパネルディスカッション
- ・保育園、介護老人保健施設、特別支援学校、小学校などとの交流ボランティア ・大学訪問 等

3-12【卒業生の進路状況(卒業者数に占める割合)の推移】 黒磯南は1期生が平成27年度卒業のため除外

小山城南 (普通科・衛生看護科※1)	計画策定当時			⇒	小山城南 (総合学科)	直近3年間		
	H14	H15	H16			H23	H24	H25
大学等進学者	33.1%	29.8%	40.1%		大学等進学者	45.4%	43.8%	41.6%
就職者	10.3%	14.7%	7.9%		就職者	8.2%	10.3%	6.6%
進路未定者※2	10.3%	11.9%	10.6%		進路未定者	6.1%	3.6%	4.1%

※1 衛生看護科は平成15年度をもって閉科。 ※2 進路未定者は進学準備を除く

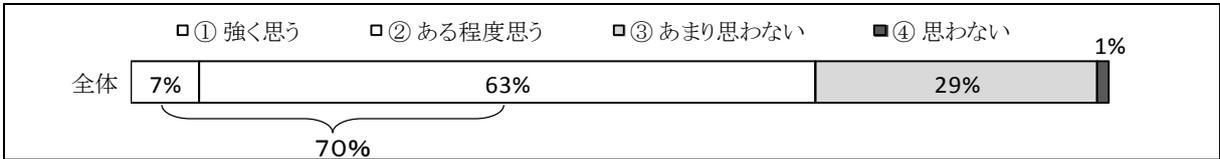
観点⑤ 総合学科について、中学生やその保護者、中学校教員に正しく理解されているか。

【在校生の意識 (H26在校生対象アンケート結果)】

3-13 『本校を受検する際、総合学科についてどの程度理解していましたか』



3-14 『本校は中学生やその保護者に総合学科について分かりやすく情報を伝えている』



3-15【総合学科高校に関する意見(H23高校対象聴き取り調査結果)】

- 「総合学科は分かりにくい」との声に応え、学校紹介冊子を配布し随時最新の情報を提供している。
- 総合学科の理解度を高めるため、学校案内は中学生に分かりやすい内容となるよう工夫している。
- 中学校の教員や保護者から「総合学科は進学できない」などの印象を持たれており、よく理解されていない状況。積極的かつ正しい情報発信が必要。

3-16【総合学科高校に関する意見 (H24中学校対象聴き取り調査結果)】

- 総合学科は選択科目が多く、中学生にとっては魅力的なようである。
- 総合学科は将来の目標が定まっていない中学生のニーズを捉えているのではないかな。
- 総合学科は生徒の多様な進路希望に対応できる点で良い。
- 総合学科は進学も就職も厳しいとのマイナスイメージを、保護者は持っているようだ。
- 総合学科は将来の進路の面で不安があるイメージが払拭できるとよいのではないかな。
- 総合学科は進路意識のしっかりした生徒でないと大学進学などの面で不安があるという印象。

観点⑥ 生徒のニーズ、満足度は高いか。

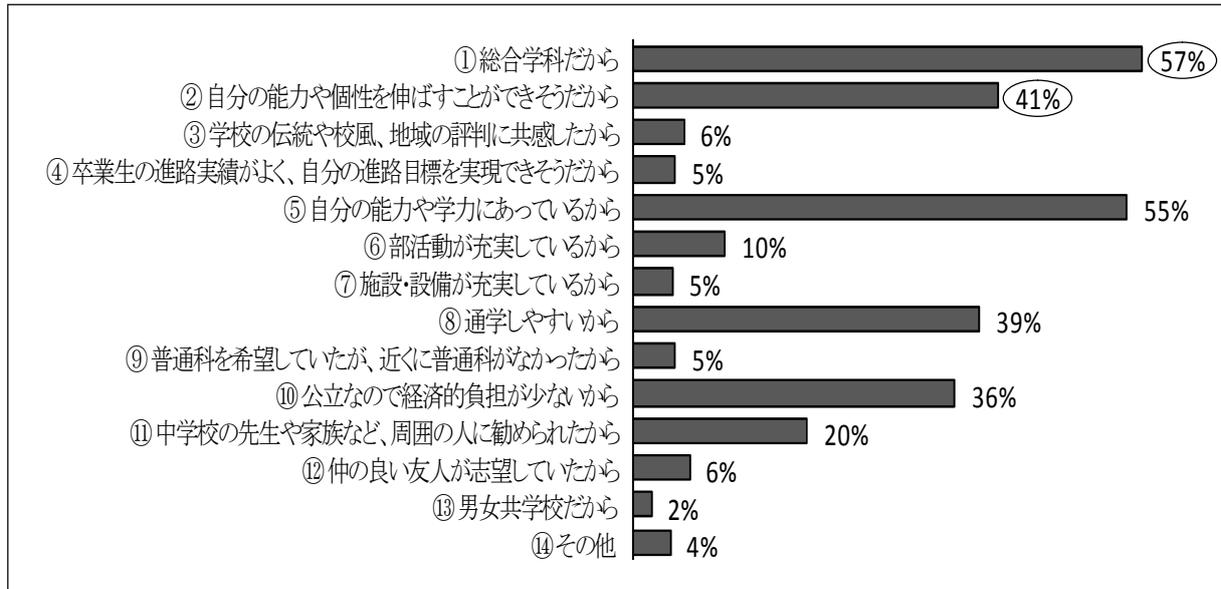
3-17【再編計画で設置した総合学科高校の受検倍率の推移】

	計画策定当時			→	直近3年間			
	H14	H15	H16		H24	H25	H26	
小山城南(普通科)	1.00	1.21	1.08		小山城南(総合学科)	1.47	1.11	1.45
黒磯南(普通科・英語科)	1.31	1.29	1.56		黒磯南(総合学科※)	—	1.38	1.03
県平均	1.29	1.30	1.28		県平均	1.23	1.22	1.21

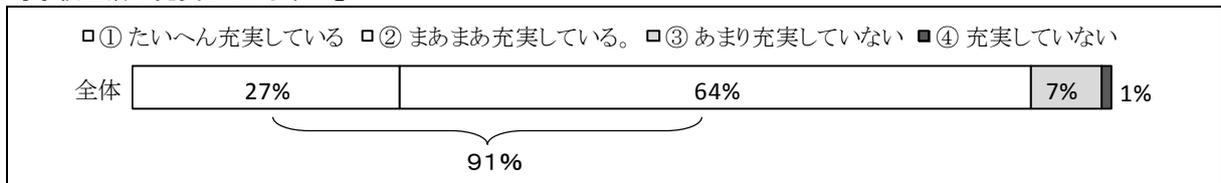
※黒磯南は平成25年度から総合学科に転換

【在校生の意識 (H26在校生対象アンケート結果)】

3-18 『本校を選択した理由は次のどれですか(3つまで回答)』



3-19 『学校生活は充実していますか』



3-20 『総合学科の魅力や良さについて』(自由記述)

- 進路に必要な科目など、自分で科目を選べる。自分で興味がある科目を選べるのでやる気が高まる。
- 得意な分野を伸ばすことができ、他校にはない受験などの強みになる授業を選択できるのが魅力だと思う。
- いろいろな授業を体験できる唯一の学科だと思う。
- 早い段階で進路に関心を持つようになり、進路意識が高まる。

検証資料 4 「科学技術高校（新しいタイプの工業高校）」の検証

観点① 設置地域は適切か。広範囲の生徒にとって選択肢になっているか。

4-1【旧学区別の進学者数及び出身中学校数（平成20年度及び平成25年度）】

	宇都宮	上都賀	下都賀	安足	芳賀	那須	塩・南那	合計	出身中学校数
平成20年度	202	37	47	1	4	5	27	323	69校
平成25年度	145	48	90		10	6	23	322	85校

観点② 施設・設備は充実しているか。先端技術・技能を学べるか。

4-2【各系における先端的な施設・設備】(H26再編新校視察資料より)

機械システム系	・高精度5軸マシニングセンタ(MC) ・3次元測定機	・高精度微細 CO ₂ レーザーマシン ・電子顕微鏡 等
電気情報システム系	・光ファイバパルス試験器 ・VVVFインバータ実験装置	・FA制御自動化実習装置 ・スペクトラムアナライザ 等
建築デザイン系	・曲げ試験機 ・電動2軸加震テーブル	・万能材料試験器+圧縮試験器 ・木造実習室 等
環境建設システム系	・GNSS測量 ・ハイブリッド発電実験装置	・3Dレーザースキャナを使用した測量機器 ・スプリンクラー実験装置 等

4-3【複数台設置された主な実習機器】

()内は一般的な工業高校における設置台数

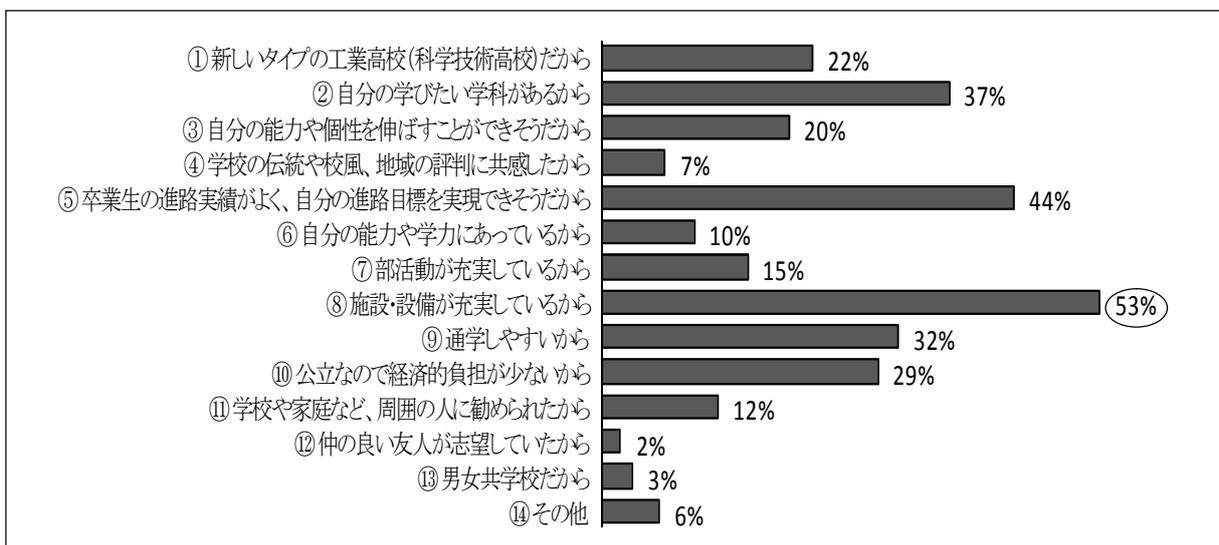
機械システム系	・6尺旋盤 15台(2台)	・立てフライス盤 11台(2台)
電気情報システム系	・シーケンス制御実習装置 40台(5台)	・デジタルオシロスコープ 20台(0台)
建築デザイン系	・土木CAD、測量CAD 各12台(0台)	・トータルステーション 8台(4台)
環境建設システム系	・ミニ油圧ショベル、ハンドガイドローラー 各1台(0台)	

4-4【大学や企業等との連携教育の状況（平成25年度実績）】(H26再編新校視察資料より)

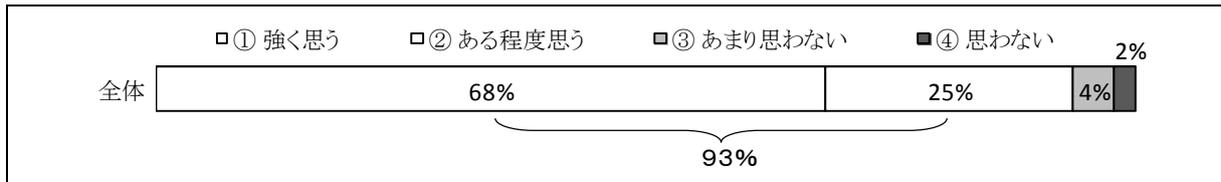
高大連携	6回実施（3大学、1高専） [宇都宮大学、足利工業大学、日本工業大学、小山工業高等専門学校]
企業等連携	11回実施（5社、3法人、1産業技術専門学校）

【在校生の意識（H26在校生対象アンケート結果）】

4-5『本校を選択した理由は次のどれですか(3つまで回答)』



4-6 『本校の施設・設備は充実しており、先端技術・技能について学べる』



4-7【工業高校 生徒・教員向け研修会等開催状況(平成25年度実績)】

ものづくり競技大会	4回開催(旋盤加工、電気工事士、建築大工、測量)	延べ参加生徒数 61名
教員向け研修会	6回開催(土木技術講習会、CAD/CAM講習会 等)	延べ参加教員数 65名

観点③ 高度な技術力を持ったスペシャリストを育成する教育課程となっているか。

4-8【宇都宮工業高校の再編の概要(= 科学技術高校への転換、及び学科改編)】

工業高校(～H22)		➔	科学技術高校=新しいタイプの工業高校(H23～)			
【設置学科】	【募集学級数】		【4系】	【11コース】	【7学科】	【募集学級数】
機械科	2		機械システム系	機械技術	機械科	3
電子機械科	1	機械エネルギー				
電気科	1		電気情報システム系	電子機械	電子機械科	2
電子科	1	電気エネルギー		電子情報科		
建築科	1	電子		情報ネットワーク		
インテリア設備科	1		建築デザイン系	建築技術	建築デザイン科	1
土木科	1	住環境デザイン				
	計8学級		環境建設システム系	環境設備	環境設備科	2
				土木施工	環境土木科	
				土木設計		
【教育課程等 (平成22年度入学生)】 ○生徒の募集は学科ごと ○2年生から進路希望に応じて、進学類型、就職類型を選択(進学類型は専門科目の代わりに数英を6～8単位履修) ○3年間の総履修単位数=90単位			【教育課程等 (平成26年度入学生)】 ○生徒の募集は系ごと ○1年生は系(=関連性が高い学科をまとめた学科群)の中で工業全般の基礎・基本を広く学び、自分の進むコースを決定 ○2・3年生は学習内容を細分化したコースに分かれ専門性を深化 ○1年生全員が学校設定科目「科学技術と産業」(1単位)を履修 ○2年生から進路希望に応じて、進学類型、専門類型を選択(進学類型は専門科目の代わりに数英理を10単位履修) ○専門類型の3年生は、他コース科目も履修可能(1科目2単位) ○3年間の総履修単位数=96単位			

4-9【学校設定科目「科学技術と産業」の内容】

○本県産業と科学技術との関わり、情報通信技術の進展、産業分野を超えた業種同士の複合化などについて学習。
 ○各科の教員が輪番制で担当分野の最新技術やその原理について授業を実施。技術者や研究者を招いて、先端技術や環境問題、エネルギー問題等に関する講話などを実施。本県の産業についての調べ学習を実施。

【在校生の意識 (H26在校生対象アンケート結果)】

4-10 『本校の4系11コース7学科は工業に関して幅広い知識を身に付けると共に専門性を深めていくのに良いシステムである』



4 「科学技術高校」の検証

4-11 『本校では工業に関する高度な専門知識・技術について学べる』

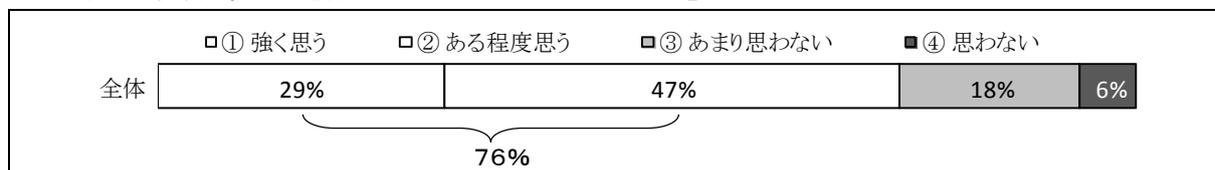


4-12【高度な資格等の受検・合格状況】(H26再編新校視察資料より)

	H21	→	H25
ジュニアマイスター顕彰認定者数	・特別表彰(60点以上他) 0名 ・ゴールド(45点以上) 8名	→	4名(県内人数不明) 40名(県内87名中)
1級ボイラー技士	未受検	→	合格率40.0%(合格者2名)
2級技能検定(建築配管)	未受検	→	合格率85.7%(合格6名)
2級建築施工管理技術検定	合格率0%	→	合格率58.3%(合格者21名)

【在校生の意識 (H26在校生対象アンケート結果)】

4-13 『私は将来、高度な技術力を持ったスペシャリストになりたい』



観点④ 大学等への進学にも対応できる教育課程となっているか。

4-14【2・3年次の類型について】(観点③【宇都宮工業高校の再編の概要】からの部分再掲)

【教育課程 等 (平成26年度入学生)】

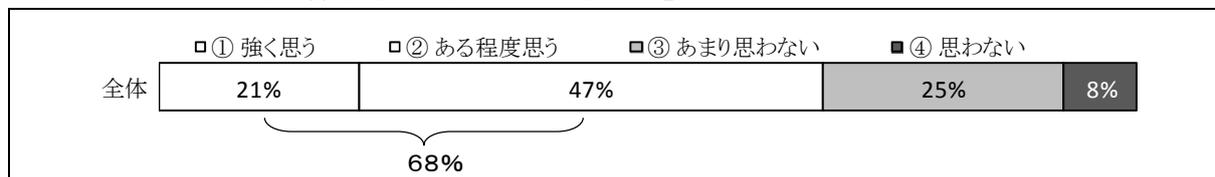
- 2年生から進路希望に応じて、進学類型、専門類型を選択(進学類型は専門科目の代わりに数英理を10単位履修)
- 専門類型の3年生は、他コース科目も履修可能(1科目2単位)

4-15【大学進学等の継続教育への対応】(H26再編新校視察資料等より)

- 進学類型選択者 : H21入学生 42名 → H23入学生 69名、H24入学生 62名、H25入学生 58名
- 進学課外授業週3日(数学・英語・物理)

4-16【在校生の意識 (H26在校生対象アンケート結果)】

『本校のカリキュラム(教育課程)は大学進学にも対応している』



4-17【卒業生の進路状況の推移(卒業生数に対する割合)】

	計画策定当時			1期生 H25
	H14	H15	H16	
大学等進学者	27.5%	28.5%	22.2%	18.5%
就職者	43.3%	43.7%	52.6%	69.1%
進路未定者※	4.8%	8.1%	5.4%	2.5%

※進路未定者は進学準備を除く

観点⑤ 生徒のニーズ、満足度は高いか。地域、産業界の期待はどうか。

4-18【受検倍率の推移】

	計画策定当時			→	直近3年間		
	H14	H15	H16		H24	H25	H26
宇都宮工業高	1.67	1.79	1.63		1.52	1.68	1.38
県平均	1.29	1.30	1.28		1.23	1.22	1.21

4-19【一日体験学習参加者数】(H26再編新校視察資料より)

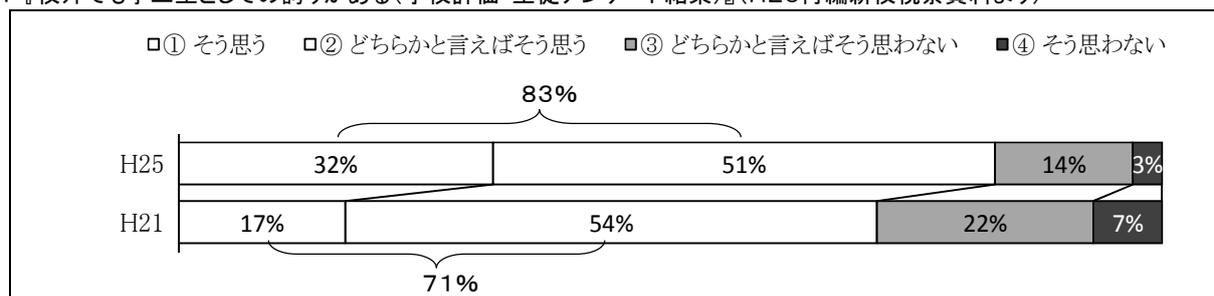
	H21	→	H25
中学生参加人数	920名	→	1370名
中学校数	89校	→	112校
保護者・教員参加人数	208名	→	506名

【在校生の意識 (H26在校生対象アンケート結果)】

4-20『学校生活は充実していますか』



4-21『校外でも宇工生としての誇りがある(学校評価 生徒アンケート結果)』(H26再編新校視察資料より)



4-22【科学技術高校に関する意見(H24中学校対象聴き取り調査結果)】

- 宇工高が雀宮に移転し希望者が増えた。地元の期待も大きい。
- 宇工高は若干遠くなったが新校舎の魅力は大きく希望者はこれまでと特に変化はない。

4-23【科学技術高校に関する意見(H23高校対象アンケート結果)】

- 新しく施設・設備が整備され、社会的期待が高まり、それに伴って教員及び生徒の意識も高まっている。
- 地域や周辺の小中学校、地元の公共機関などから交流活動の申し入れが大幅に増え、学校の活性化を期待。
- 産業界からの卒業生に対する期待の高まり。

4-24【科学技術高校に関する意見(H26当該校への聴き取り調査結果)】

- 企業採用担当者から以下のような意見が出されている。
 - ・面接で大学生でも説明できない専門用語(CAE)を理解しており、高度な専門知識を身に付けている。
 - ・コミュニケーションも十分にとれており、成績ばかりではなく人物的にも優秀。将来の幹部候補生として考えている。
 - ・他校生にないものを持っている。

検証資料 5 「総合産業高校」の検証

観点① 設置地域は適切か。広範囲の生徒にとって選択肢になっているか。

5- 1【旧学区別の進学者数(平成25年度)】

	宇都宮	上都賀	下都賀	安足	芳賀	那須	塩・南那	全県
進学者数 (旧学区別の割合)	14 (7%)		180 (91%)	2 (1%)	2 (1%)			198

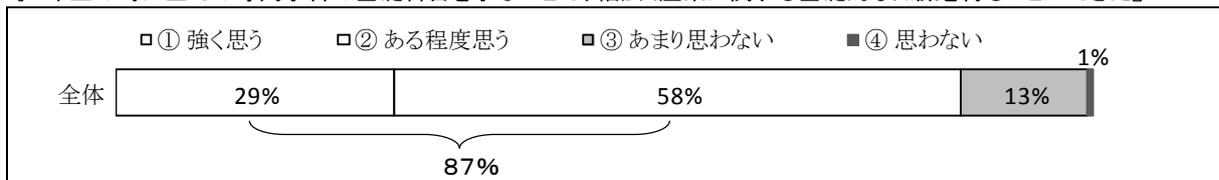
観点② 生産から流通、消費まで産業分野を横断的に広く学べているか。
総合的な知識・技能を身につけられる教育課程か。

5- 2【小山北桜高校の再編の概要(= 総合産業高校への転換、及び農業学科・家庭学科の学科改編)】

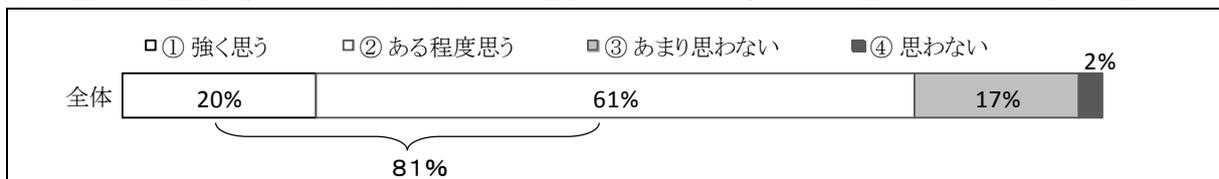
総合選択制専門高校(～H20)				総合産業高校(H21～)			
【設置学科】		【募集学級数】		【設置学科】		【募集学級数】	
農業学科	都市園芸科	1	計5学級	園芸科学科	植物生産／植物バイオ	1	計5学級
	緑地工学科	1		造園土木科	造園技術／土木技術	1	
工業学科	建築システム科	1		建築システム科	建築技術／生産システム	1	
商業学科	総合ビジネス科	1		総合ビジネス科	流通ビジネス／情報ビジネス	1	
家庭学科	インテリアデザイン科	1		生活文化科	生活デザイン／食文化	1	
【教育課程 等 (平成20年度入学生)】 ○2・3年生は興味・関心や進路希望に応じて他学科専門科目や普通科目を選択可能。 (2年生は2科目4単位、3年生は3科目6単位で計10単位選択可能。)				【教育課程 等 (平成26年度入学生)】 ○1年生は4学科の基礎科目(4科目8単位)を全員が履修し産業全体について幅広く学ぶ。 ○2年生以降は各学科内でコース(類型)に分かれ、それぞれの専門分野をより深く学ぶ。 ○2・3年生は興味・関心や進路希望に応じて、他学科専門科目や普通科目を選択可能。 (各学年1科目2単位で計4単位選択可能)			

【在校生の意識、及び科目選択状況 (H26在校生対象アンケート結果)】

5- 3 『1年生の時に全ての専門学科の基礎科目を学ぶことで、幅広く産業に関する基礎的な知識を得ることができた』



5- 4 『1年生の時に全ての専門学科の基礎科目を学ぶことで、他学科への理解が深まったり、興味・関心が広がった』

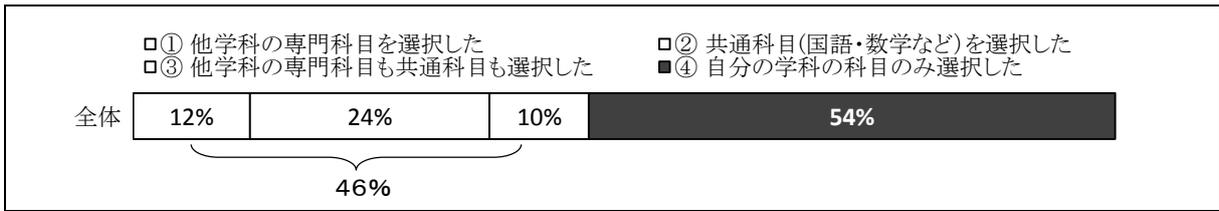


5- 5 『総合産業高校の魅力や良さについて』(自由記述)

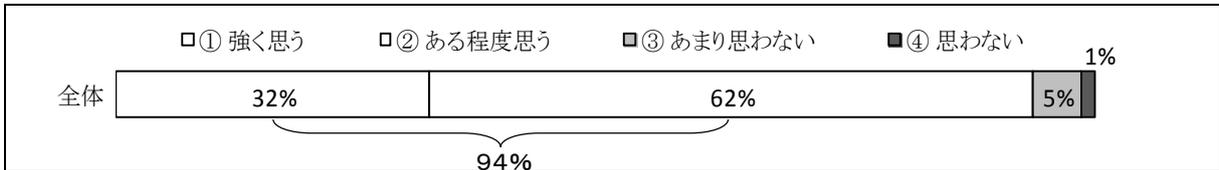
- 社会に出たときに、各産業で手を取り合わないと流通もできないので、1年生の時に少しでも総合的に産業について基礎を学べて良かったと思います。
- 学科を1年次に知り、私生活でも他学科の知識がいかせる時があり、とても良い経験になった。
- 1年間他の学科の勉強をすることで、他の学科について知ることができた。他の学科に負けたくないと思う刺激になった。視野が広がった。

【在校生の意識、及び科目選択状況（H26在校生対象アンケート結果）】

5-6 『2・3年生の総合選択科目で、自分の学科の専門科目以外の科目を選択しましたか』



5-7 『自分の専門学科以外の科目を選択し学べてよかった』



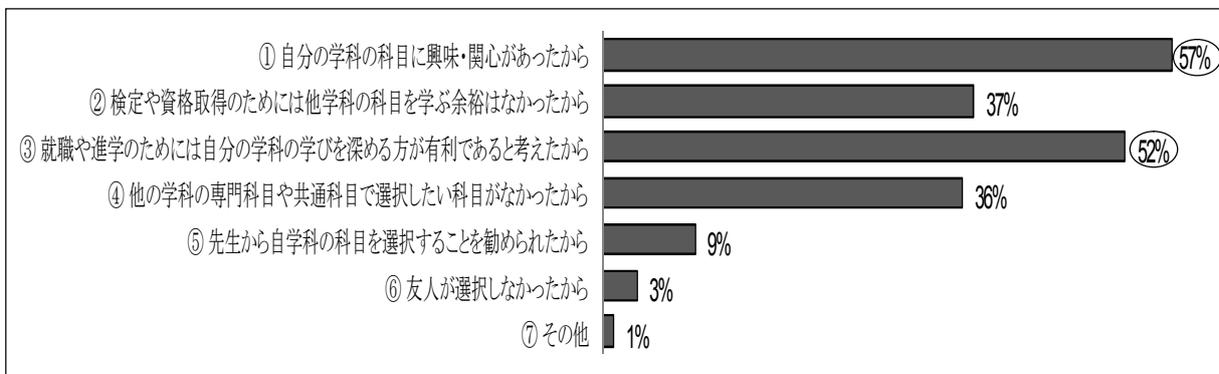
5-8 【自学科以外の専門学科に関わる主な資格の合格状況(平成25年度)】

	園芸科学科	造園土木科	建築システム科	総合ビジネス科	生活文化科
全商ワープロ検定2～4級	8名	31名		—	48名
保育技術検定4級	30名	21名	28名	27名	—
アーク溶接、ガス溶接 小型建設機械、フォークリフト	延べ12名	—	—		

観点③ 専門性も深められる教育課程か。

【在校生の意識（H26在校生対象アンケート結果）】

5-9 『2・3年生の総合選択科目で自分の学科の専門科目以外の科目を選択しなかった理由は次のどれですか(2つまで回答)』



5-10【総合産業高校に関する意見(H23高校対象聴き取り調査結果及びH25学校評価報告書より)】

○4学科基礎科目の1年生全員履修は学科連携を深める上で大きな役割を果たしているが、他の専門高校に比べて専門科目の授業時間数が少なくなるため、専門性の深化や資格取得の点では課題がある。限られた時間割の中で学科連携と専門性の深化の折り合いをどうつけていくかが今後の大きな課題である。

○普通教科(理科)とのコラボ学習や放課後の補習指導などの工夫により対応している。

5-11【自学科に関わる資格のうち受検者数・合格者数が増加している主な資格(平成24年度と25年度の比較)】

農業学科	3級造園技能士、2級造園施工管理士
工業学科	第2種電気工事士、3級建築大工技能士、計算技術検定2級
商業学科	全商珠算電卓1級、全商商業経済1級、全商情報処理1級、全商ワープロ検定1級
家庭学科	家庭科技術検定4冠・3冠表彰者〔4冠は被服製作(洋服・和服)、調理、保育の4つの技術検定1級合格者〕

5 「総合産業高校」の検証

観点④ 生徒のニーズ、満足度は高いか。地域、企業の期待はどうか。

5-12【受検倍率の推移】

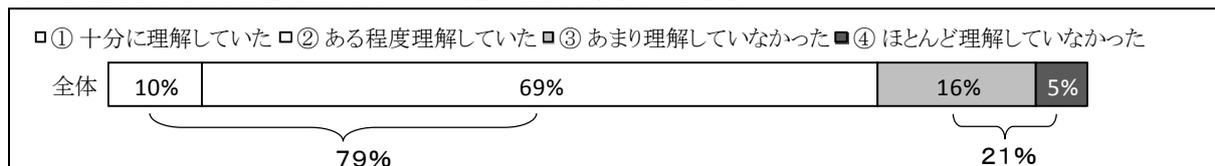
	計画策定当時		
	H14	H15	H16
学校全体	1.56	1.41	1.20
県平均	1.29	1.30	1.28

➡

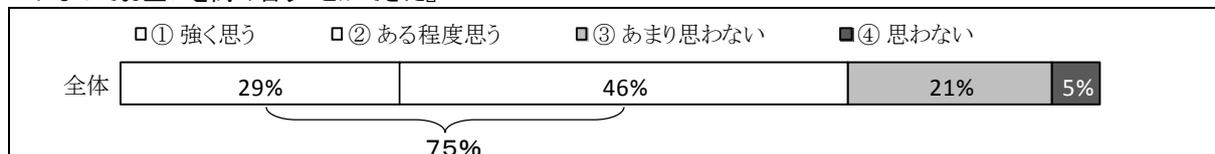
直近3年間		
H24	H25	H26
1.32	1.18	1.20
1.23	1.22	1.21

【在校生の意識、及び科目選択状況（H26在校生対象アンケート結果）】

5-13 『本校を受検する際、総合産業高校についてどの程度理解していましたか』



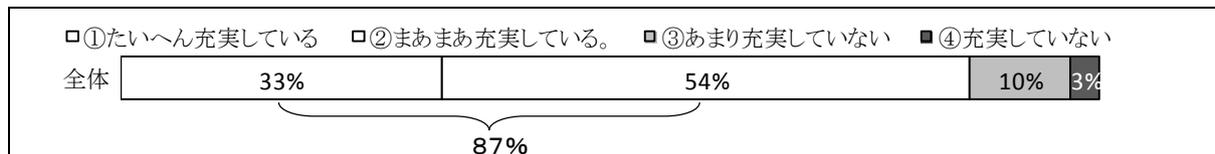
5-14 『複数の専門学科が一つの学校にあることにより、5学科連携など様々な場面で互いに協力したり刺激し合ったりすることによってお互いを高め合うことができた』



5-15 『専門学科の学びを通して、職業や勤労に対する意識が高まった』



5-16 『学校生活は充実していますか』



5-17【地域連携・企業連携の取組（H25学校評価報告書 等より）】

- 地元小中学校との交流(野菜苗を小学生と一緒に植え付け、向日葵の播種、花壇整備、緑のカーテン設営)
- 地元小中学校5校の給食用に本校で栽培した野菜を提供
- ジュニア・キャリアアドバイザー事業(児童との枝ペン作り、オリジナルステッカー作り 等)
- 思川桜苗木育成事業の取組(小山市との連携)
- インターンシップ、企業見学会、民間講師招聘事業・県庁出前講座等による講演会
- 地元の事業所・企業組合と連携した商品開発
(「桜笑ッキー」、「栗入りがんもどき」、「桜笑ペペロンチーソース」、「小山和牛入りかんぴょうカレーパン」等) など

5-18【総合産業高校に関する意見(H23高校対象アンケート及び聴き取り調査結果)】

- 全学科が協力連携した「桜笑ッキー(さくらさくッキー)」の開発。
かんぴょうを農業科で育て、その粉末を利用したクッキーを家庭科で地域の事業所と連携して開発。工業科で販売用の看板作成し、商業科で販路等を調査し販売。この学科連携の取組の過程で生徒の意欲が向上した。この成功を契機に、5学科の融合テーマを設定し取り組むようになり、学校全体も大きく活性化した。
 - 就職内定率は100%。第1希望内定率が再編前の約50%から約70%に向上した。
- 【H23以降、就職内定率100%を継続中】

5-19【卒業生の進路状況の推移(卒業生数に対する割合)】

	計画策定当時		
	H14	H15	H16
大学等進学者	15.6%	14.7%	8.3%
就職者	48.0%	48.9%	48.8%
進路未定者※	14.7%	10.0%	12.4%

※進路未定者は進学準備を除く



H23が総合産業高の1期生

直近3年間		
H23	H24	H25
7.3%	11.1%	11.9%
58.7%	56.1%	51.1%
6.7%	3.5%	4.0%

検証資料 6 「総合選択制高校」の検証

観点① 設置地域は適切か。広範囲の生徒にとって選択肢になっているか。

6-1【旧学区別の進学者数(平成25年度)】

	設置地区	宇都宮	上都賀	下都賀	安 足	芳 賀	那 須	塩・南那
高根沢高	塩・南那	66				3		130
足利清風高	安 足			2	193			
鹿沼南高	上都賀	26	165	10				1
合 計		92	165	12	193	3		131

観点② 普通科生徒の職業観、勤労観は育成されているか。

6-2【高根沢高校の再編の概要(= 高根沢商業高校を総合選択制高校へ転換)】

商業高校(～H17)		総合選択制高校(H18～)	
【学科】	【募集学級数】	【学科】	【募集学級数】
商業科	3	普通科	2
流通経済科	1	商業科	3
計4学級		計5学級	
【教育課程 等 (平成17年度入学生)】 ○2・3年生は進路希望に応じて普通科科目を選択(国英から最大7単位)		【教育課程 等 (平成26年度入学生)】 ○普通科1・2年生は商業科目4科目9単位を全員が履修 ○普通科2・3年生は興味・関心や進路希望に応じて、商業科目を選択履修(最大6科目16単位) ○商業科2・3年生は進路希望に応じて普通科科目を選択(国英から最大6単位)	

6-3【足利清風高校の再編の概要(= 足利商業高校と足利西高校を統合。総合選択制高校へ転換)】

足利商業高校(～H18)		総合選択制高校(H19～)		
【学科】	【募集学級数】	【学科】	【類型】	【募集学級数】
商業科	3	普通科	文系	2
情報処理科	1		理系	
計4学級		商業科		2
【教育課程 等 (平成18年度入学生)】 ○情報処理科3年生は進路希望に応じて、普通科科目を選択(英3単位)		情報処理科		1
計5学級		【教育課程 等 (平成26年度入学生)】 ○普通科2・3年生は商業科目2科目4単位を全員が履修 ○普通科2・3年生は興味・関心や進路希望に応じて、商業・家庭の科目を選択履修(最大3科目8単位) ○商業科・情報処理科3年生は進路希望に応じて、普通科科目を選択(国数から最大2科目4単位)		
足利西高=普通科女子校(～H18)				
普通科	3学級			
【教育課程 等 (平成18年度入学生)】 ○2年生は家庭看護福祉を全員が履修 ○3年生は興味・関心や進路希望に応じて、家庭・情報等の科目を選択(2科目4単位)				

6-4【鹿沼南高校の再編の概要(= 鹿沼農業高校と栗野高校を統合。総合選択制高校へ転換)】

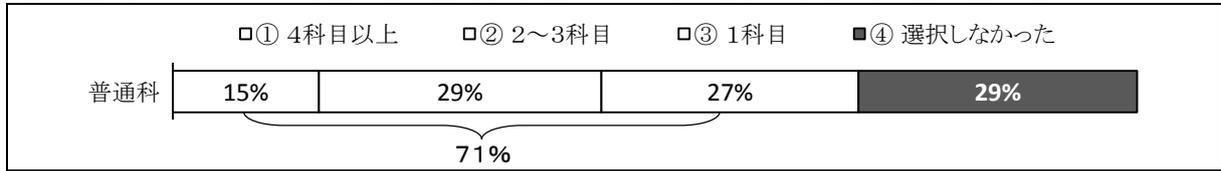
鹿沼農業高校(～H20)		総合選択制高校(H21～)		
【学科】	【募集学級数】	【学科】		【募集学級数】
農林経営科	1	普通科	普通科	2
農業機械科	1			
造園土木科	1	農業学科	環境緑地科	1
生活科学科	1		食料生産科	
計4学級		家庭学科	ライフデザイン科	1
【教育課程 等 (平成18年度入学生)】 ○3年生は進路希望に応じて普通科科目を選択(国社数理英から最大2科目4単位)		【教育課程 等 (平成26年度入学生)】 ○普通科1年生は農業科目1科目2単位を全員が履修 ○普通科2・3年生は興味・関心や進路希望に応じて、農業・家庭等の科目を選択履修(最大5科目10単位) ○農業科・家庭科2・3年生は興味・関心や進路希望に応じて、普通科科目(国社数理英)及び他学科専門科目から選択(最大5科目10単位)		
栗野高=普通科高校(～H20)				
普通科	3学級			
【教育課程 等 (平成20年度入学生)】 ○3年生は興味・関心や進路希望に応じて、家庭・情報等の科目を選択(2科目4単位)				

6-5【教育課程の状況(平成26年度入学生)】

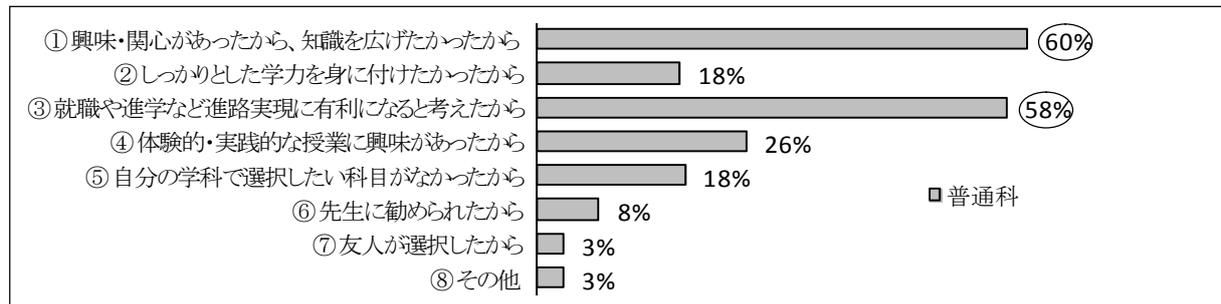
	鹿沼南高	足利清風高	高根沢高
普通科の生徒全員が履修する職業系専門科目の単位数	2	4	9
普通科の生徒が選択可能な職業系専門科目の最大単位数	10	文8、理6	16
専門学科の生徒が選択可能な普通系科目の最大単位数	10	4	6

【在校生の意識、及び科目選択状況 (H26在校生対象アンケート結果)】

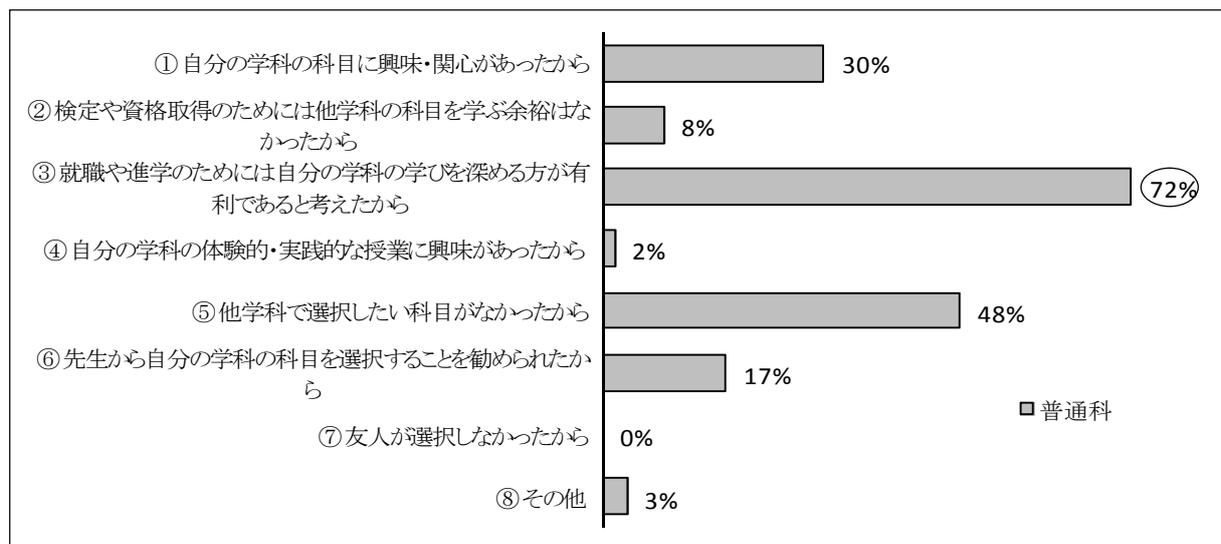
6-6 (普通科生徒)『これまでに他学科の科目を何科目選択しましたか。(全員が必ず履修する科目を除く)』



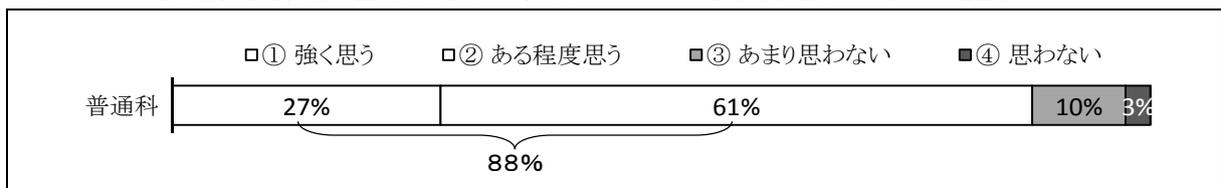
6-7 (他学科の科目を選択した普通科生徒)『他学科の科目を選択した理由は次のどれですか(2つまで回答)』



6-8 (他学科の科目を選択しなかった普通科生徒)『他学科の科目を選択しなかった理由は次のどれですか(2つまで回答)』



6-9 (他学科の科目を選択した普通科生徒)『自分の専門学科以外の科目を選択し学べてよかったですか』

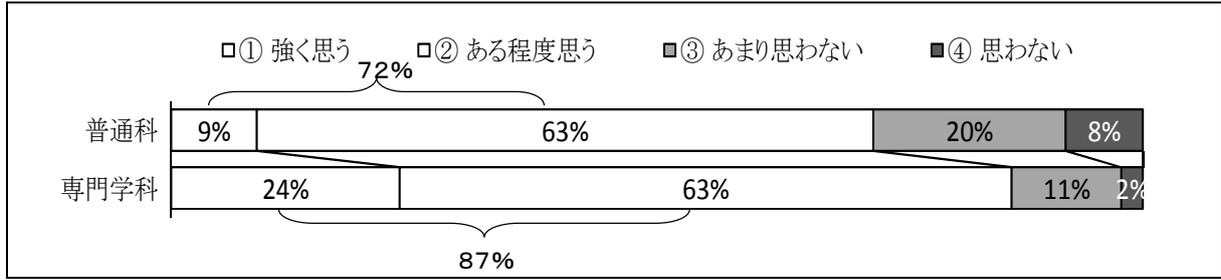


6-10 『総合選択制高校の魅力や良さについて』(自由記述)

- 普通科でも専門学科の科目を学べる。検定を受けることができる。多くの知識が身につく。
- 自学科のほか、他学科も学べるのはとてもよい。知識や進路の幅も広がる。

6 「総合選択制高校」の検証

6-11 『職業系専門学科の学びを通して、職業や勤労に対する意識が高まった』



6-12【普通科におけるインターンシップ実施状況(平成26年度実施予定)】

	学年	予定期間	人数	計	参加率
鹿沼南高	2年	5日間	29人	189人	80%
足利清風高	1年	3日間	80人		
高根沢高	2年	5日間	80人		

※他の全日制普通科におけるインターンシップ実施校は7校(日光明峰、壬生、佐野東、益子芳星、黒羽、那須、馬頭)

6-13【卒業生の進路状況(卒業生数に占める割合)の推移】

	再編前 普通科(栗野・足利西)			⇒	総合選択制高校 普通科(鹿沼南・足利清風・高根沢高)		
	計画策定当時				直近3年間		
	H14	H15	H16		H23	H24	H25
大学等進学者	29.5%	27.7%	26.7%		34.2%	41.1%	41.7%
就職者	25.7%	27.0%	24.0%		19.1%	17.8%	15.7%
進路未定者※	6.6%	8.8%	16.4%		4.4%	3.4%	7.0%

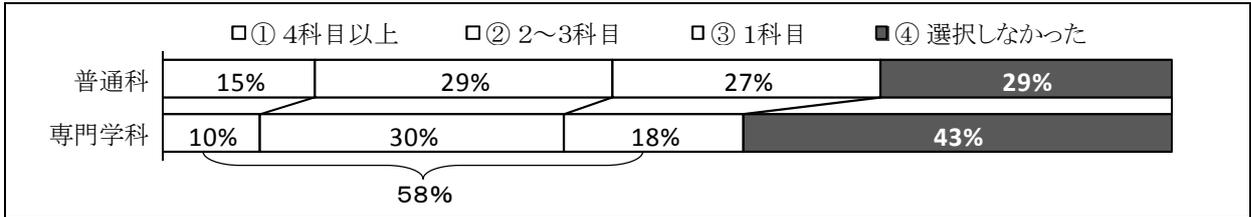
	再編前 専門学科(鹿沼農・足利商・高根沢商)			⇒	総合選択制高校 専門学科(鹿沼南・足利清風・高根沢高)		
	H14	H15	H16		H23	H24	H25
大学等進学者	14.2%	16.3%	13.2%		14.1%	12.7%	12.5%
就職者	49.9%	49.0%	50.2%		48.8%	49.9%	55.7%
進路未定者※	12.6%	10.5%	11.8%		7.4%	4.0%	4.1%

※進路未定者は進学準備を除く

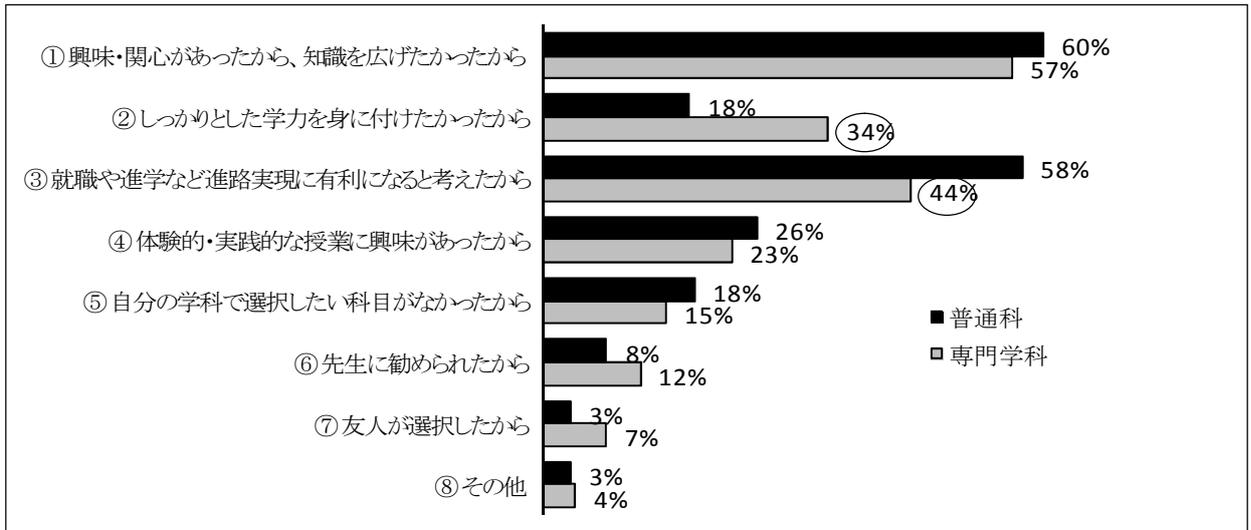
観点③ 専門学科の生徒にとっても普通科併置、普通科目の選択はメリットとなっているか。

【在校生の意識、及び科目選択状況（H26在校生対象アンケート結果）】

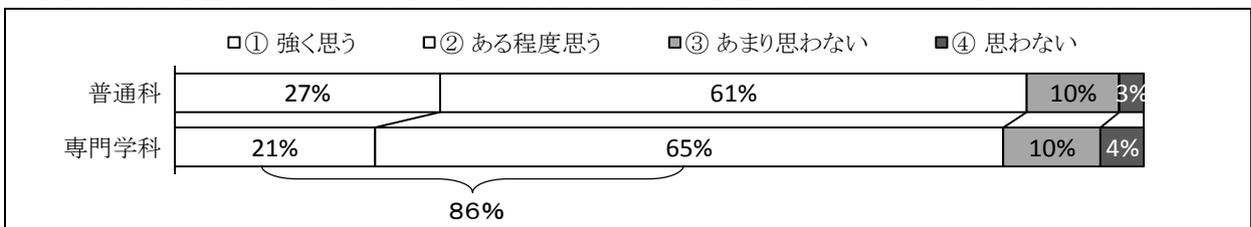
6-14 『これまでに他学科の科目を何科目選択しましたか。（全員が必ず履修する科目を除く）』（一部再掲）



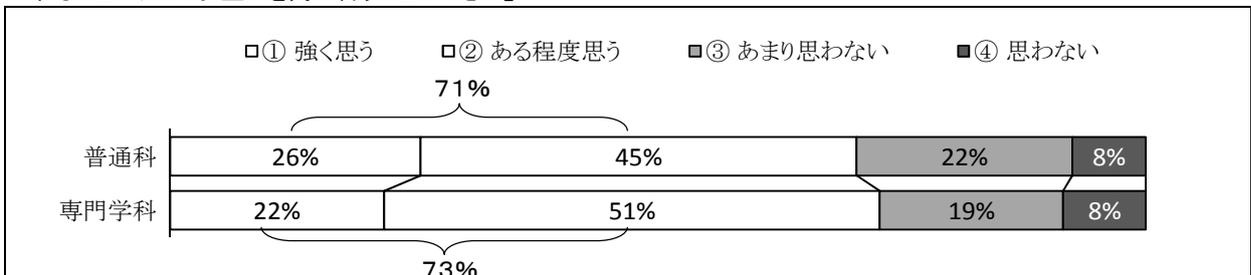
6-15（他学科の科目を選択した生徒のみ）『他学科の科目を選択した理由は次のどれですか（2つまで回答）』（一部再掲）



6-16（他学科の科目を選択した生徒のみ）『自分の専門学科以外の科目を選択し学べてよかったと思いますか』（一部再掲）



6-17 『普通科と職業系専門学科が一つの学校にあることにより、学校行事など様々な場面で互いに協力したり、刺激し合ったりすることによってお互いを高め合うことができた』



6-18【総合選択制高校に関する意見（H23高校対象アンケート及び聴き取り調査結果）】

○普通科の多くの生徒が専門科目を意欲的に学んでいる。また、専門学科の生徒も、普通科の生徒が補習等で頑張っている姿に刺激を受けており、学力向上や進路希望のレベルアップが図れている。

6 「総合選択制高校」の検証

観点④ 生徒のニーズ、満足度は高いか。地域の期待はどうか。

6-19【受検倍率の推移】

再編前 普通科高校(栗野・足利西)
 専門高校(鹿沼農・足利商・高根沢商)

	計画策定当時		
	H14	H15	H16
当該校 普通科平均	0.71	0.65	0.75
当該校 専門学科平均	1.26	1.30	1.26
県平均	1.29	1.30	1.28

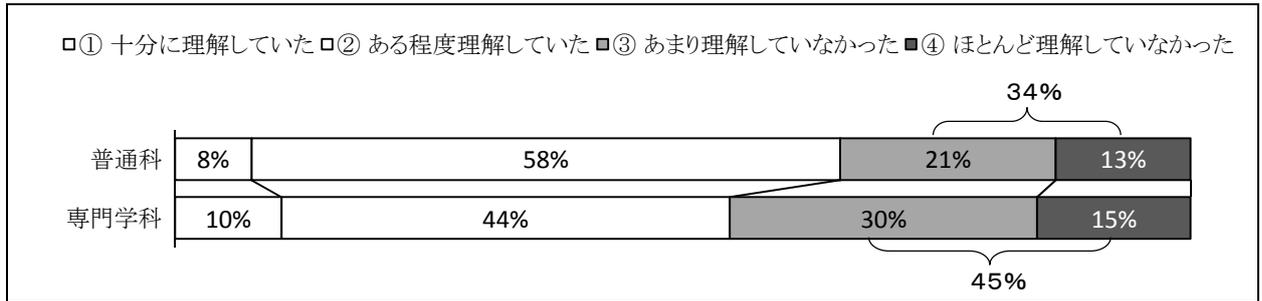
再編後
 総合選択制高校 (鹿沼南・足利清風・高根沢高)

	直近3年間		
	H24	H25	H26
当該校 普通科平均	1.30	1.15	1.15
当該校 専門学科平均	1.45	1.25	1.35
県平均	1.23	1.22	1.21

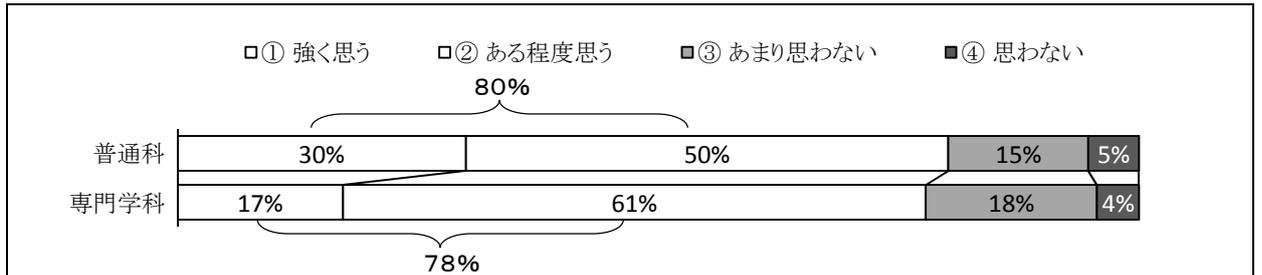


【在校生の意識 (H26在校生対象アンケート結果)】

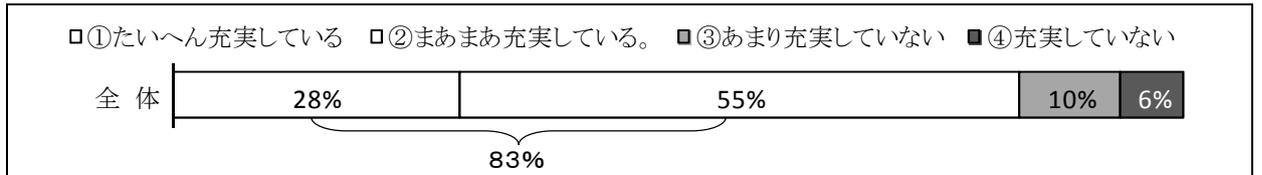
6-20 『本校を受検する際、総合選択制高校についてどの程度理解していましたか』



6-21 『普通科の生徒全員が職業系専門学科の科目を必ず学ぶことは良いことだと思う』



6-22 『学校生活は充実していますか』



6-23【総合選択制高校に関する意見(H24中学校対象聴き取り調査結果)】

- 総合選択制高校の普通科で専門科目を必修する進学一辺倒でないシステムは生徒のニーズに合致。
- 総合選択制高校は母体校から受け継いだ就職指導のノウハウと、普通科の進学指導への期待がある。
- 総合選択制高校の普通科は専門科目を学習するので就職にも有利なイメージがあり評判も良い。

6-24【総合選択制高校に関する意見(H23高校対象アンケート及び聴き取り調査結果)】

- 普通科の生徒が専門科目を一部学べることで、進路意識に変化が出たり、専門学科の生徒で進学希望の生徒が普通科目を学ぶことで学力向上につながられる。中学生段階では、将来の生き方や職業に対する希望が未熟な者が多く、高校で専門学科の学習や職場体験をすることで、キャリアが形成されていく意義は大きい。
- 普通科の特色(全員が商業科目を学び資格が取得できること、インターンシップを実施するなどキャリア教育が充実していること等)が高く評価されているものと思う。地元からの希望者も増えてきた。
- 普通科は、チャレンジショップやインターンシップ、保育・介護体験等、体験的・実践的な学習や商業科目の履修等、「社会人基礎力の育成」に重点を置いている。結果として大学受験(AO・推薦入試が中心)の際にも役立っている。このような学びのスタイルが中学生のニーズに合致したことが、高倍率の要因の一つと分析している。

検証資料 7 「男女共学化の推進」の検証

観点① 男女共学化は推進されたか。
共学校と別学校の共存を望む県民世論にも配慮した取組か。

7-1【共学校と別学校の学校数及び学級数(平成15年度及び26年度全日制)】 学校数、学級数の欄の下段は構成比。

	H15 (再編前)			H26 (再編後)		
	学校数	学級数	校名 (○は学級数)	学校数	学級数	校名 (○は学級数)
共学校	50 73.5%	265 68.5%		48 81.3%	248 78.7%	
男子校	8 11.8%	55 14.2%	宇高⑦、宇東高⑦、栃高⑦、佐高⑥、 足高⑥、真高⑦、大高⑦、烏高④、 [小高(普④)]*	5 8.5%	29 9.2%	宇高⑦、栃高⑥、足高⑤、 真高⑤、大高⑥
女子校	10 14.7%	67 17.3%	宇女高⑧、宇中女高⑧、小城高⑥、 栃女高⑧、佐女高⑥、足女高⑥、 足西高③、真女高⑧、大女高⑦、 烏女高⑤、 [鹿農高(生①)、栃農高(生①)]*	6 10.2%	38 12.1%	宇女高⑦、宇中女高⑦、 栃女高⑥、足女高⑤、 真女高⑥、大女高⑥、 [栃農高(生①)]

※H15の小山高校は普通科のみ男子募集のため、学校数は共学校、学級数は男子校に計上

また、旧鹿沼農業高校及び栃木農業高校は生活科学科のみ女子募集のため、学校数は共学校、学級数は女子校に計上

7-2【旧学区別の別学率の推移】 別学率は、募集定員に占める男女別募集の割合。

	宇都宮	上都賀	下都賀	安足	芳賀	那須	塩・南那
平成15年度	39.5%	2.2%	29.9%	53.2%	39.7%	28.6%	22.3%
平成26年度	30.9%	0%	18.3%	24.5%	38.3%	28.6%	0%

7-3【共学化の推進について(H24中学校対象アンケート結果)】

	宇都宮	上都賀	下都賀	安足	芳賀	那須	塩・南那	合計 (割合)
評価する、 どちらかといえば評価する	13	10	19	6	9	12	4	73校 (45%)
どちらともいえない	13	12	12	13	8	10	9	77校 (48%)
どちらかといえば評価しない、 評価しない	2	3	2	2	0	1	1	11校 (7%)

7-4【共学化に関する意見(H24中学校対象聴き取り調査結果)】

○選択肢が増えて共学化を喜ぶ生徒・保護者が多く、元女子校に男子も躊躇なく希望している。
○元女子校に男子も抵抗感なく受検している。
○男女共学化の推進については、男女別学の長所や多様性も捉えつつ考えていってほしい。

(参考)【共学化校の入学者の男女比】 表中の数値は男:女。5月1日現在の生徒数から算出。

	小山高校(普)	小山城南高校	烏山高校	宇都宮東高校	佐野高校	佐野東高校
平成24年度	55:42	19:81	56:44	53:47	49:51	34:66
平成25年度	63:38	28:72	52:48	54:46	55:45	36:64
平成26年度	64:37	26:74	55:45	56:44	49:51	39:61

<参考> 男女比に6:4以上の片寄りの見られる普通科・総合学科高校(平成26年度)

普通科：宇都宮清陵高校(37:63)、上三川高校(37:63)、栃木翔南高校(33:67)、壬生高校(33:67)

総合学科：足利南高校(32:68)、黒磯南高校(33:67)

7 「男女共学化の推進」の検証

7-5【共学化の推進について(H23高校対象アンケート結果)】

回答数	選択肢	主な記述内容
31校 (51%)	共学化を 推進すべき	・男女が共に学ぶことの意義、男女共に選択できる学校数の拡大、中学校卒業生数の減少する地域における別学校の統合による共学化などの観点から、共学化を推進すべきという意見が見られた。
30校 (49%)	別学校を 存続すべき	・別学独自の良さや、別学も学校の特色の一つ、別学校への進学を望む中学生のニーズ等の観点から、別学校を選択肢として存続すべきという意見が多かった。 ・また、学校の伝統や、地域の歴史的背景、県民感情等に配慮して存続すべきという意見も見られた。

7-6【旧学区別の男女別募集定員(H26年度)】

	宇都宮	上都賀	下都賀	安足	芳賀	那須	塩・南那
男子のみ募集	280	0	240	200	200	240	0
女子のみ募集	560	0	280	200	240	240	0

観点② 共学化にあたって、教育内容の充実や学校の特色化・個性化に努めたか。

7-7【共学化した学校の特色、新しいタイプの学校の導入状況】

共学化校	共学化前の募集	学校の特色、新しいタイプの学校
宇都宮東高校	男	中高一貫教育 導入、科学リテラシーやリーダーシップの育成を目指す教育、教養を深める学習などを展開
小山城南高校	女	総合学科 に転科、これまでの実践的な教育活動の取組を踏まえ、系列として「生活・福祉」や「健康科学」を設置
小山高校	男*	普通科を共学化、普通科のこれまでの取組をいかしつつ、英語合宿など英語人文科の教育活動の一部を導入
佐野高校	男	中高一貫教育 導入、文化・芸術活動を柱とした教養教育や実践的コミュニケーション能力育成のための英語教育、リーダーシップ育成のための教育などを展開
佐野東高校	女	普通科を共学化、進路希望の実現を目指した高い学力を保障する学習指導、社会貢献力を高める地域連携活動などを展開
足利清風高校	女、男女	足利西高の普通科と足利商業高の商業科を継承し 総合選択制 に再編、足利西高の社会福祉に係る体験学習や足利商業高で実践されていたインターンシップも継続実施
烏山高校	男、女	普通科の継続、学習指導・進路指導の充実・強化、地域との交流やボランティア活動の充実、旧烏山女子高の校地・体育館も継続利用し部活動を活性化

7-8【共学化に関する意見(H23高校対象聴き取り調査結果等)】

- 女子校時代は品性、落ち着いた校風であったが、共学後は品性を保ちながらも活気が増した。
- 生徒の学校評価アンケートでは、共学後、「部活動や生徒会活動に熱心に取り組んでいる」と感じている生徒が増加した(73.9%→81.7%)。
- 生徒指導や学校行事等、共学校としての学校運営は手探りの状態だが順調である。
- 旧校の良さを引き継ぎながら、男子も女子も活躍の場がある学校となっている。

7-9【共学化に関する意見(高校の学校関係者評価より)】

- 文化祭での男子生徒の活気ある態度や丁寧な対応には感心した。
- 学校祭では、ファッションショーやお茶会などが素晴らしかった。女子校の良いところをよく引き継いでいる。この方向で発展していけば、新校ならではの特徴がないとの声もあるが、更に良い学校になると期待している。
- 学習成果発表会での家庭クラブ活動発表は、男子も女子も大変素晴らしいものであった。旧校の伝統を引き継ぎ男子もよく頑張っている。

検証資料 8 「全日制高校の規模の適正化」の検証

観点① 学校規模の適正化は推進されたか。

8-1【4学級規模校における新入生の充足率別学校数】

5月1日現在の1年在籍者数より算出

	100% 以上	～90%	～80%	～70%	～60%	～50%	50% 未満	合計
平成24年度	10	2			2			14校
平成25年度	9	3		1			1	14校
平成26年度	11		1		1	1		14校

観点② 1 学年 4～8 学級が適正規模か。

8-2【全国の公表適正規模の状況】

1学年あたりの学級数による

	2～8 学級	3～8 学級	4～6 学級	4～8 学級	5～8 学級	6～8 学級	8学級	4学級 以上	設定 なし	合計
都道府県数	1	2	1	30	1	9	1	1	1	47

〔 下限が4学級以上…43都道府県
上限が8学級以下…45都道府県 〕

8-3【学校の適正規模について(H23高校対象アンケート結果)】

選択肢	回答数	主な記述意見
現行のままでよい	45校 (74%)	・1 学年4～8学級は適度な競争と協力が行える規模である。 ・4～8学級は適正であるが、学校の活性化という観点から5学級(または6学級)を確保したい(5校)。
見直すべき	16校 (26%)	・4学級も活力低下の不安があるので、適正規模は5学級(または6学級)以上とすべき。(5校) ・統合による対応では、通学に支障が出る地域が出てくる可能性があるため、地域等によっては3学級も認めるべき(7校)。

8-4【適正規模に関する意見(H24中学校対象アンケート及び聴き取り調査結果)】

- (4学級維持のため)低倍率校が定員減にならず高倍率校が定員減となっている。適正に定員を増減すべき。
- (地元の普通科高校は)6学級規模で学力差が大きいことを不安視する声がある。
- 地元校の奮起を期待。地区全体のことを思えば現状では1学級減(5学級)が良い。

検証資料 9 「全日制高校の学校の統合」の検証

観点① 計画どおりに統合は進められたか。

9-1【旧学区別中卒者数、学校数、平均学校規模等】

	中卒者数			統合数	学校数		3学級以下		平均学校規模		
	H16	H26	減少率*		H15	H26	H15	H26	H15	H26	備考*
宇都宮	5,276	4,897	▲7.2%	—	10	10	0	0	7.6	6.8	6.8
上都賀	2,328	1,680	▲27.8%	2組	9	7	3	0	5.0	4.9	3.8
下都賀	5,404	4,583	▲15.2%	1組	15	14	1	0	5.8	5.1	4.7
安足	3,062	2,686	▲12.3%	2組	10	8	1	0	5.1	5.1	4.1
芳賀	1,804	1,447	▲19.8%	1組	7	6	2	0	5.4	4.8	4.1
那須	2,558	2,133	▲16.6%	—	8	8	0	0	6.1	5.3	5.3
塩谷・南那須	2,036	1,494	▲26.6%	3組	9	6	2	0	4.6	4.8	3.2
全 県	22,468	18,920	▲15.8%	9組 ▲13.2%	68	59	9	0	5.7	5.3	4.6

※減少率＝H16中卒者数を基準としたH26中卒者数の減少率

※備考欄は、統合を行わなかった場合の平均学校規模を試算(H26旧学区別学級数/H15旧学区別学校数)

観点② 統合新校はそれまでの伝統を活かしながら特色、個性を持った学校づくりとなっているか。
統合により学校の活力は高まったか。

9-2【普通科における設置科目数等の変化】

	足尾高(普) (H15入学生)	日光高 (H15入学生)	⇒	日光明峰高 (H17入学生)	芳賀高 (H15入学生)	益子高 (H15入学生)	⇒	益子芳星高 (H17入学生)
設置科目数	47	41		49	41	46		56
専門教科科目数	10	2		12	7	9		18
備 考	工業科を除く							
	藤岡高 (H15入学生)	栃木南高 (H15入学生)	⇒	栃木翔南高 (H18入学生)	烏山女子高 (H17入学生)	烏山高 (H17入学生)	⇒	(新)烏山高 (H20入学生)
設置科目数	33	43		45	42	46		41
専門教科科目数	3	3		4	3	4		2
備 考					習熟度別授業	8科目		11科目
	足利西高 (H16入学生)	足利商業高 (H16入学生)	⇒	足利清風(普) (H19入学生)	栗野高 (H18入学生)	鹿沼農業高 (H18入学生)	⇒	鹿沼南(普) (H21入学生)
設置科目数	43			43	28			47
専門教科科目数	6			10	2			15
備 考		普通科なし		商業科を除く		普通科なし		農・家を除く

9-3【部活動設置数、加入率等の変化】 統合直前3年間及び統合2年後からの3年間の平均

	足尾高	日光高	⇒ 日光明峰高	芳賀高	益子高	⇒ 益子芳星高
運動部加入率	47.8%	43.8%	35.5%	35.5%	34.2%	38.4%
運動部設置数	6.0	19.0	20.0	20.0	13.0	13.0
1部活平均部員数	4.3	7.9	7.5	7.5	10.6	13.9
野球部員数	2.5	9.5	12.0	12.0	12.5	21.0
サッカー部員数	0.0	16.5	11.7	11.7	26.0	29.7

	藤岡高	栃木南高	⇒ 栃木翔南高	喜連川高	氏家高	⇒ さくら清修高
運動部加入率	20.5%	42.9%	41.9%	37.3%	37.0%	42.5%
運動部設置数	11.3	18.0	22.3	16.0	23.0	21.0
1部活平均部員数	4.3	15.4	13.5	7.8	12.6	14.3
野球部員数	0.3	26.0	24.3	11.0	20.7	31.7
サッカー部員数	9.0	23.3	24.7	9.7	29.3	37.7

	足利西高	足利商業高	⇒ 足利清風高	烏山女子高	烏山高	⇒ (新)烏山高
運動部加入率	21.9%	32.6%	39.0%	30.1%	41.7%	45.5%
運動部設置数	5.0	14.0	13.3	10.3	12.3	17.0
1部活平均部員数	13.3	11.1	17.3	14.1	15.9	15.5
野球部員数		19.0	19.3		34.3	22.7
サッカー部員数		15.7	21.0		35.7	35.7

	粟野高	鹿沼農業高	⇒ 鹿沼南高	田沼高	佐野松陽高	⇒ 佐野松桜高
運動部加入率	39.4%	24.4%	28.6%	20.3%	44.1%	43.6%
運動部設置数	9.7	15.3	17.3	13.7	18.3	20.0
1部活平均部員数	5.6	6.8	9.7	6.7	14.1	15.0
野球部員数	7.3	14.3	23.3	16.3	20.3	25.0
サッカー部員数	13.3	14.0	14.3	11.7	30.3	24.0

	塩谷高	矢板高	⇒ (新)矢板高
運動部加入率	24.2%	44.5%	46.4%
運動部設置数	13.3	21.7	22.0
1部活平均部員数	5.4	11.9	11.6
野球部員数	13.0	25.0	24.0
サッカー部員数	9.0	26.3	41.0

※運動部加入状況調査(H15～25)による
 ・足尾高、日光高はH15、H16の2年間の平均。
 ・佐野松桜高、(新)矢板高はH25年のみの値。

9-4【統合に関する意見(H23高校対象アンケート及び聴き取り調査結果)】

- 部活動加入率の増加・活発化により、生徒の帰属意識の高まりが見られ、学校全体が活性化。
- 生徒の部活動の加入率が高く、活気ある学校にしている。
- 統合を契機に新たな取組(教育課程の見直し等)が提起され、心機一転という雰囲気の中で学校全体で取り組めた。
- 新校になってから、概ね高倍率が継続し、地元からも一定の評価を得ている。
- 統合に際しては、当初、校風の違い等による混乱もあったが、現在は落ち着いた。

9-5【統合等による全日制高校の規模と配置の適正化について(H24中学校対象アンケート結果)】

	宇都宮	上都賀	下都賀	安足	芳賀	那須	塩・南那	合計(割合)
評価する、どちらかといえば評価する	13	18	17	13	14	17	6	98校(61%)
どちらともいえない	14	6	14	5	3	4	3	49校(30%)
どちらかといえば評価しない、評価しない	1	1	2	3	0	2	5	14校(9%)

9 「全日制高校の学校の統合」の検証

9-6【受検倍率の推移】 再編直前直後及び直近3年間。○数字は1学年の学級数。

	H14	H15	H16
足尾高②	0.24	0.14	0.20
日光高③	1.11	1.34	0.95
旧上都賀学区平均	1.18	1.15	1.14



	H17	H24	H25	H26
日光明峰高④	1.11	0.66	0.45	0.46
旧上都賀学区平均	1.14	1.14	1.13	1.13

	H14	H15	H16
芳賀高③	2.10	1.56	1.17
益子高④③③	1.24	1.26	1.30
旧芳賀学区平均	1.29	1.16	1.22



	H17	H24	H25	H26
益子芳星高④	1.46	1.19	1.00	1.13
旧芳賀学区平均	1.19	1.11	1.07	1.13

	H15	H16	H17
藤岡高③	0.83	0.67	0.62
栃木南高⑤	1.24	1.44	1.35
旧下都賀学区平均	1.38	1.27	1.29



	H18	H24	H25	H26
栃木翔南高 ⑥⑤⑤⑤	1.17	1.40	1.47	1.20
旧下都賀学区平均	1.28	1.28	1.32	1.27

	H15	H16	H17
喜連川高③	1.12	0.94	1.04
氏家高⑦⑥⑤	1.41	1.29	1.40
旧塩谷・南那須学区平均	1.19	1.14	1.14



	H18	H24	H25	H26
さくら清修高⑥	1.27	1.01	1.18	1.02
旧塩谷・南那須学区平均	1.09	1.09	1.07	1.03

	H16	H17	H18
足利西高③	1.04	0.63	0.72
足利商業高④	1.21	0.97	1.15
旧安足学区平均	1.21	1.15	1.14



	H19	H24	H25	H26
足利清風高⑤	1.23	1.18	1.05	1.07
旧安足学区平均	1.15	1.09	1.11	1.18

	H17	H18	H19
烏山女子高④	0.99	1.08	1.03
烏山高④	1.13	1.04	0.96
旧塩谷・南那須学区平均	1.14	1.09	1.09



	H20	H24	H25	H26
(新)烏山高⑤	1.11	0.98	0.92	0.92
旧塩谷・南那須学区平均	1.08	1.09	1.07	1.03

	H18	H19	H20
栗野高③	0.50	0.46	0.43
鹿沼農業高④	1.32	1.02	1.20
旧上都賀学区平均	1.11	1.13	1.18



	H21	H24	H25	H26
鹿沼南高⑤	1.38	1.55	1.29	1.41
旧上都賀学区平均	1.19	1.14	1.13	1.13

	H20	H21	H22
田沼高④	1.03	1.27	1.01
佐野松陽高⑤	1.17	1.20	0.97
旧安足学区平均	1.16	1.17	1.15



	H23	H24	H25	H26
佐野松桜高⑥	1.21	1.11	1.20	1.44
旧安足学区平均	1.18	1.09	1.11	1.18

	H20	H21	H22
塩谷高③	1.03	1.03	1.13
矢板高⑤	1.30	1.24	1.20
旧塩谷・南那須学区平均	1.08	1.19	1.15



	H23	H24	H25	H26
(新)矢板高⑤	1.67	1.21	1.17	1.18
旧塩谷・南那須学区平均	1.17	1.09	1.07	1.03

観点③ 統合後も高校進学への機会は確保されているか。

9-7【統合により県立高校が無くなった地域の中学校卒業者の進学状況の変化】

H14～16年3月卒業者とH24～26年3月卒業者の比較

旧足尾町

	卒業生数(人)	進学率(%)			
		旧学区内	県立高校	全日制高校	進学
H14～16平均	23.0	46.4	46.4	98.3	100.0
H24～26平均	8.3	41.0	41.0	84.4	96.7
差	-14.7	-5.4	-5.4	-13.9	-3.3
進学率が 高まった高校					

旧栗野町

	卒業生数(人)	進学率(%)			
		旧学区内	県立高校	全日制高校	進学
H14～16平均	155.0	62.8	81.8	97.9	99.1
H24～26平均	97.0	43.8	72.3	94.3	97.7
差	-58.0	-19.0	-9.5	-3.6	-1.4
進学率が 高まった高校	今工(3.4%増)、栃工(3.2%増)				

旧藤岡町

	卒業生数(人)	進学率(%)			
		旧学区内	県立高校	全日制高校	進学
H14～16平均	213.0	53.9	66.1	96.8	99.1
H24～26平均	135.7	54.4	59.6	90.6	97.6
差	-77.3	0.5	-6.5	-6.2	-1.5
進学率が 高まった高校	栃農(7.3%増)、北桜(2.7%増)、学悠館(2.7%増)				

旧田沼町・旧葛生町

	卒業生数(人)	進学率(%)			
		旧学区内	県立高校	全日制高校	進学
H14～16平均	459.0	60.7	62.9	96.2	97.7
H24～26平均	322.3	60.2	66.6	94.9	98.6
差	-136.7	-0.5	3.7	-1.3	0.9
進学率が 高まった高校	松桜(9.8%増)、足利(4.5%増)、足南(3.1%増)				

芳賀町

	卒業生数(人)	進学率(%)			
		旧学区内	県立高校	全日制高校	進学
H14～16平均	215.0	57.3	73.8	92.7	96.0
H24～26平均	147.3	51.0	78.7	94.7	98.7
差	-67.7	-6.%	4.9	2.0	2.7
進学率が 高まった高校	宇清(4.6%増)、北陵(4.3%増)、芳星(3.0%増)				

塩谷町

	卒業生数(人)	進学率(%)			
		旧学区内	県立高校	全日制高校	進学
H14～16平均	184.3	60.3	78.0	94.3	97.0
H24～26平均	111.7	43.7	74.9	95.1	98.8
差	-72.6	-16.6	-3.1	0.8	1.8
進学率が 高まった高校	矢板(4.5%増)、宇商(4.4%増)、高根沢(2.3%増)				

旧喜連川町

	卒業生数(人)	進学率(%)			
		旧学区内	県立高校	全日制高校	進学
H14～16平均	127.7	69.3	88.2	96.3	98.5
H24～26平均	97.7	57.5	81.6	96.6	99.7
差	-30.0	-11.8	-6.6	0.3	1.2
進学率が 高まった高校	烏山(8.9%増)、馬頭(5.6%増)、さくら(4.0%増)				

全県

	卒業生数(人)	進学率(%)			
		旧学区内	県立高校	全日制高校	進学
H14～16平均	23151.0	56.2	65.5	93.3	97.0
H24～26平均	19009.0	53.1	64.5	92.6	98.5
差	-4142.0	-3.1	-1.0	-0.7	1.5
進学率が 高まった高校					

※ 「旧学区内」の値は各市町が位置する旧学区内の県立高校全日制への進学率を表す(他学区の共通学区は含めていない)

※ 「県立高校」の値は県内の県立高校全日制への進学率を表す

※ 「全日制高校」の値は県内外の国公立高校・私立高校全日制への進学率を表す

※ 「進学」の値は県内外全ての高校(国公立・私立の全日制・定時制・通信制)、高等専門学校、特別支援学校高等部への進学率を表す

検証資料 10「全日制高校の学科の構成と配置の適正化」の検証

観点① 普通系学科と職業系専門学科の割合は計画どおりか。

※本文中に關係資料掲載

観点② 普通系内の各学科の割合と配置は適正か。

観点③ 職業系内の各学科の割合と配置は適正か。

10-1【旧学区別学科別の学級数及び募集定員割合の推移】

平成 15 年度

(「割合%」は募集定員における各学科構成比)

		宇都宮	上都賀	下都賀	安 足	芳 賀	那 須	塩・南那	全 体	割合%	
普通系	普通科	51	22	58	29	21	35	23	239	61.8	70.1
	普通系専門学科			5			2		7	1.8	
	総合学科		7		5	6		7	25	6.5	
職業系専門学科	農業科	4	4	7		3	3	1	22	5.7	29.9
	工業科	10	7	7	8	5	5	2	44	11.4	
	商業科	9	5	9	7	2	3	5	40	10.3	
	家庭科	2		1	1		1	1	6	1.6	
	水産科							1	1	0.2	
	福祉科				1	1		1	3	0.8	
募集定員の普職比		67:33	64:36	72:28	67:33	71:29	76:24	74:26			70:30



平成 26 年度

		宇都宮	上都賀	下都賀	安 足	芳 賀	那 須	塩・南那	全 体	割合%	
普通系	普通科	45	17	43	22	15	27	14	183	58.5	69.0
	普通系専門学科			3					3	1.0	
	総合学科		5	5	5	5	4	6	30	9.6	
職業系専門学科	農業科	4	2	7		3	3	1	20	6.4	31.0
	工業科	9	5	6	7	4	5	2	38	12.1	
	商業科	8	4	6	5	1	2	3	29	9.3	
	家庭科	2	1	1	1		1	1	7	2.2	
	水産科							1	1	0.2	
	福祉科				1	1		1	3	0.7	
募集定員の普職比		66:34	65:35	72:28	66:34	70:30	74:26	70:30			69:31

10-2【中学3年生の学科別進路希望倍率の推移】

(H14~16は1月実施第3回希望調査結果、H23~25は12月実施第2回進路希望調査結果による)

		H14 年度	H15 年度	H16 年度	H14~16 3年平均	H23 年度	H24 年度	H25 年度	H23~25 3年平均
普通系 学科	普通科	1.20	1.19	1.21	1.20	1.17	1.18	1.18	1.18
	体育科	1.24	1.26	0.97	1.16	1.04	0.99	1.06	1.03
	理数科	0.98	0.88	0.89	0.92	0.83	0.68	1.23	0.91
	英語科	0.88	1.18	0.83	0.96	0.65			
	総合学科	1.22	1.23	1.18	1.21	1.15	1.14	1.08	1.12
職業系 専門学科	農業科	1.30	1.26	1.20	1.25	1.22	1.13	1.20	1.18
	工業科	1.24	1.25	1.21	1.23	1.17	1.22	1.18	1.19
	商業科	1.21	1.16	1.11	1.16	1.20	1.13	1.14	1.16
	家庭科	1.50	1.29	1.36	1.38	1.45	1.50	1.49	1.48
	水産科	0.96	0.60	0.56	0.71	0.96	0.76	0.96	0.89
	福祉科	1.42	1.46	1.19	1.36	1.20	1.12	1.02	1.11
全体		1.21	1.20	1.19	1.20	1.17	1.18	1.17	1.17

11「フレックス・ハイスクールの設置及び
定時制・通信制高校の規模と配置の適正化」の検証

観点② フレ・ハイは多様な生徒を受け入れる環境となっているか。

11-6【フレ・ハイの特色的な入試制度について】

入学者選抜	<p>(1) フレックス特別選抜 定時制で実施。定員は募集定員の50%を上限とし、学力検査を行わず面接・作文で代替。</p> <p>(2) 社会人入学制度 定時制で実施。満20歳以上の志願者については、学力検査を行わず、作文で代替可能とする。</p> <p>(3) 転編入学者選抜 定時制・通信制で実施。前籍校の修得単位を有する者を対象とする。(転編入定員60名)</p>
-------	--

11-7【フレックス特別選抜の状況について】

	学科	募集定員	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	平均
学悠館高校 フレックス 特別選抜 受検倍率	I 普通	40	2.95	2.05	2.20	2.28	2.60	2.05	2.03	1.93	1.43	1.90	2.14
	II 普通	40	3.78	1.93	2.23	2.03	2.38	1.75	2.63	1.53	1.95	1.63	2.18
	III 普通	20	1.30	1.00	1.40	0.85	1.00	0.45	0.80	0.60	0.70	0.25	0.84
	III 商業	20	0.90	1.20	0.30	0.35	0.65	0.55	0.60	0.35	0.55	0.15	0.56
定時制受検倍率全県平均 (フレックス特別選抜を除く)			0.97	0.77	0.73	0.80	0.92	0.79	0.83	0.59	0.59	0.57	0.76

11-8【社会人入学と転編入学の状況について】

	H24	H25	H26	平均	割合	備考
過年度卒入学者数	23	30	32	28.3	14.1%	※新入生のうち、過年度に中学校を卒業している者及び20歳以上の入学者の割合
20歳以上入学者数(内数)	2	4	3	3.0	1.4%	
転入学者数	9	10	7	8.7	5.4%	※2～4年次在籍者のうち、転編入学者の割合
編入学者数	22	14	7	14.3		

11-9【学悠館高校の教育相談体制について】

教育相談体制は学悠館高校視察(H26.6.17)資料による

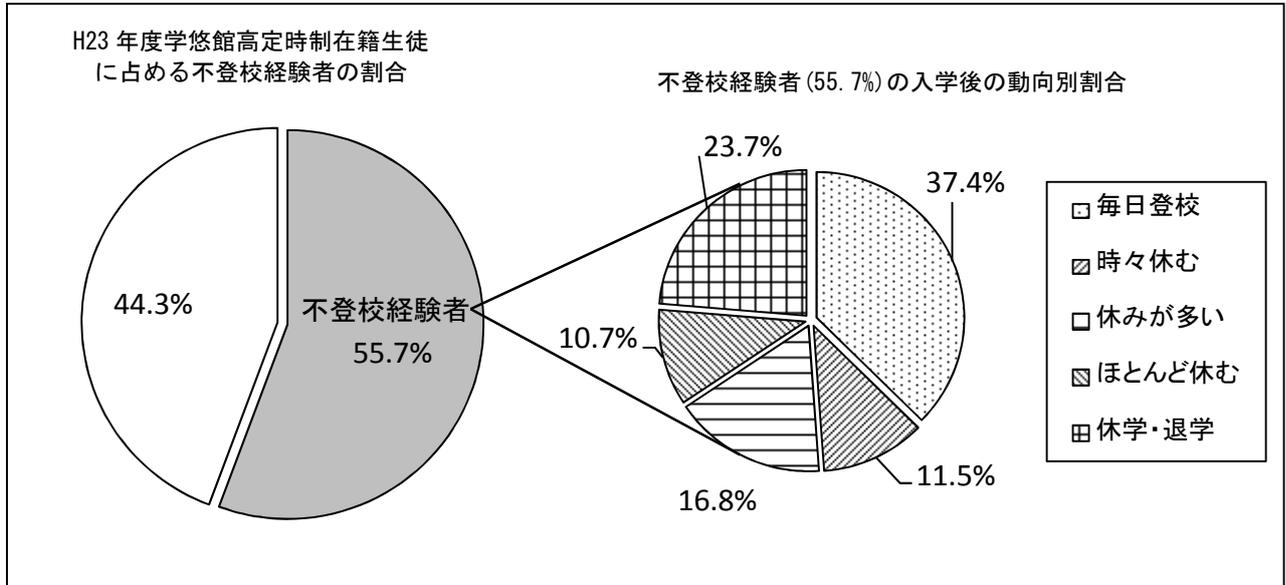
特徴的な施設・設備等	<p>(1) 相談室(3室) 教育相談機能の充実を図るため相談室を整備</p> <p>(2) 多目的スペース(悠友ラウンジ、学習コーナー、ピロティ、エントランス及び中庭) 生徒が教員や友達との交流を通して、一層成長できるよう、積極的に多目的スペースを配置</p>
教育相談体制	<p>チーム援助体制</p> <p>○相談部・養護教諭を中心に全教職員で対応 { (1) スクールカウンセラーを2名配置 ○関係機関との連携 { (2) 学校運営組織として相談部を設置</p> <p>【生徒・保護者への支援】</p> <p>○スクールカウンセラー(SC)面談 ○相談室職員常駐、相談活動(面接・電話)</p> <p>○事前・予防開発的な心理教育 「人間関係構築スキルアップトレーニング」「ストレスコーピング」</p> <p>○相談室だより発行(月1回)、ふれあいキャンプ参加</p> <p>○インタラクティブ・パートナー受入れ(年齢の近い大学(院)生ボランティアが相談相手として活動)</p> <p>○不登校保護者相談会 等の実施</p> <p>【教職員への支援】</p> <p>○スクールカウンセラー(SC)面談</p> <p>○事例検討会(生徒の問題行動等について、随時検討会を実施。複数の目で多方面から指導援助)</p> <p>○情報交換会(SC・養護教諭・相談部。各年次・各部毎・全教職員での実施)</p> <p>○サポートミーティング(チーム援助指導が必要なケースについて対応策等を検討、中心教職員をサポート)</p> <p>○研修会(外部講師、SCや本校教職員によるショートスタディ)など</p>

11「フレックス・ハイスクールの設置及び
定時制・通信制高校の規模と配置の適正化」の検証

11-10【学悠館高校入学者の学習歴と入学後の出席状況の変化について】

	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	平均
新入学生徒数	241	230	223	236	239	235	236	199	215	190	224.4
うち中学校時代の不登校経験者数	130	133	124	131	127	127	117	105	112	101	120.7
不登校経験者の割合	54%	58%	56%	56%	53%	54%	50%	53%	52%	53%	54%

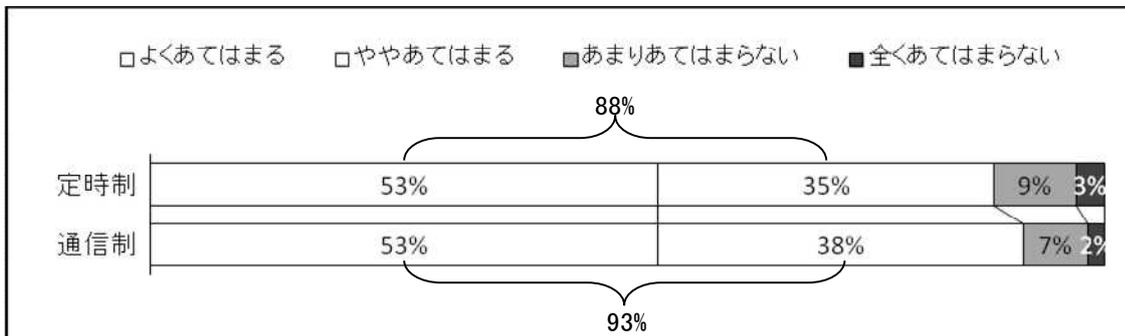
【不登校経験者のその後の動向について(H23年度定時制在籍生徒)】学悠館高校視察(H26. 6. 17)資料より



11-11【フレックス・ハイスクールに関する意見(H24中学校対象聴き取り調査結果)】

- 学悠館高校を第1希望とする生徒は不登校の者がほとんどで、彼らにとっては大きな救い。
- 学悠館高校は、不登校の生徒や高校中退者の学び直しの場として非常にありがたい存在。
- 不登校生徒は遠くても学悠館高校を、経済状況が厳しい生徒は近隣の定時制高校を選ぶ傾向がある。

11-12【学校評価アンケート結果(H25年12月実施)】『私は、本校に入学して良かったと思う』



11-13【学校関係者評価意見より】

(H25年2月・H26年2月実施 学校評議員会において)

- 「この学校に入学して良かった」、「入学させて良かった」という回答が非常に多いことが分かった。適切に指導がなされていると自信を持って良いのではないか。
- 生徒に自信を付けさせるために行事や体験活動の機会を設けており、成果を上げている。このような教員・生徒・保護者が一緒に取り組む良い活動があることをもっと積極的に広報していくべきである。
- 学校の多種多様な取組とその成果が、情報の発信不足等により、中学校をはじめ地域社会に十分に知れ渡っていない。
- 更なる開かれた学校づくりを目指し、今後とも保護者、中学校、地域(自治会等)への発信をお願いしたい。

11「フレックス・ハイスクールの設置及び
定時制・通信制高校の規模と配置の適正化」の検証

観点③ 定時制高校・通信制高校の配置は適切か。

11-14【旧学区別 定時制高校の設置と募集学級数の変化】 ()内は設置学科と募集学級数

	宇都宮	上都賀	下都賀	安 足	芳 賀	那 須	塩・南那	合計
H15年度	宇工(工③) 宇商(普①商①)	鹿商工(商①)	小山(普①) 栃木(普①)	佐野(普①商①) 足利(普①) 足工(工②)	真岡(普①)	大東(普①)	矢東(普①)	11校 16学級 640名
H26年度	宇工(工②) 宇商(普②商①)	鹿商工(商①)	学悠館 (普⑤商①)	足工(工①)	真岡(普①)	大東(普①)	矢東(普①)	8校 16学級 640名
募集学級 数の変化	5→5	1→1	7→7		1→1	1→1	1→1	16→16

11-15【受検倍率の推移】 再編直前直後及び直近3年間。 ○数字は募集学級数

		H14	H15	H16							
小山高	普①	1.03	0.93	0.78	学悠館高⑥	I 普②	2.45	1.52	1.35	1.48	
		栃木高	普①	1.08			0.73	0.80	II 普②	2.51	1.17
佐野高②	普①			0.48			0.53	0.28	III 普①	1.20	0.45
	商①	0.13	0.20	0.23			III 商①	0.90	0.37	0.49	0.17
足利高	普①	0.40	0.23	0.20							

学悠館高の受検倍率はフレックス特別選抜と一般選抜の平均。

11-16【定時制進学者の出身地区別割合】 各学校ごとのH22～25年度進学者総数に占める出身地区別割合〔単位は%〕

中卒者の進路状況調査より作成(過年度生含む)

学校名	地区								高校所在 地区出身	高校所在 市出身
	宇都宮	上都賀	下都賀	安 足	芳 賀	那 須	塩・南那			
学悠館高校	16.0	13.8	47.2	22.1	0.5		0.5	47.2	14.9	
昼間部(I・II部)	19.2	16.8	44.7	18.2	0.5		0.7	44.7	13.4	
夜間部(III部)	7.6	5.8	53.8	32.4	0.4			53.8	18.7	
他の定時制 小計	37.5	12.2	4.3	10.2	10.5	16.3	8.9	83.5	65.9	
宇都宮工業高校	70.6	11.1	11.7		2.2		4.4	70.6	70.6	
宇都宮商業高校	84.3	4.3	1.7		1.7		8.1	84.3	84.3	
鹿沼商工高校		96.3	3.8					96.3	77.5	
足利工業高校			1.1	98.9				98.9	73.0	
真岡高校	1.1		9.5		88.4		1.1	88.4	52.6	
大田原東高校	1.7					95.7	2.6	95.7	41.7	
矢板東高校				1.2		40.7	58.0	58.0	33.3	
定時制 合計	27.1	13.0	25.0	15.9	5.7	8.5	4.9	66.0	41.3	

11-17【通信制在籍者の居住地区別割合】 各学校ごとのH24年度在籍者総数に占める居住地区別割合〔単位は%〕

各校の学校要覧より作成

学校名	地区								高校所在 地区出身	高校所在 市出身
	宇都宮	上都賀	下都賀	安 足	芳 賀	那 須	塩・南那			
学悠館高校	6.2	8.6	53.4	27.9	2.4		1.3	53.4	23.6	
宇都宮高校	40.7	9.5	8.3	1.6	10.3	11.9	17.3	40.7	40.7	
通信制 合計	26.0	9.1	27.5	12.8	7.0	6.8	10.5	53.5	36.5	

11「フレックス・ハイスクールの設置及び
定時制・通信制高校の規模と配置の適正化」の検証

11-18【フレックス・ハイスクールへの再編等による定時制・通信制高校の規模と配置の適正化について
(H24中学校対象アンケート結果)】

	宇都宮	上都賀	下都賀	安 足	芳 賀	那 須	塩・南那	合 計 (割 合)
評価する、 どちらかといえば評価する	16	18	27	11	7	8	2	89校 (55%)
どちらともいえない	12	7	6	9	10	14	12	70校 (44%)
どちらかといえば評価しない、 評価しない	0	0	0	1	0	1	0	2校 (1%)

11-19【平成25年度県立高校再編に関する検討会議報告書より】

3 県央以北の定時制・通信制のあり方について

(2) 検討結果

検討の中では、県央以北のフレ・ハイ整備については、多様な生徒に対応できる教育環境を県央以北にも提供できること、全日制と定時制の施設共用を解消できること等の利点がある一方、定時制5校の統合を伴うことから、無理なく通学できる範囲から外れる地域が生じること、地元で定時制が無くなり通学費の負担が増えること等の課題が確認された。

これら通学に関わる課題については、その影響を考慮すると、定時制進学希望者の就学機会が失われることのないよう慎重な対応が求められることから、当会議としては、再編計画期間中に県央以北のフレ・ハイの施設整備に着手し、定時制5校を統合して設置するという現行計画については、これを実施せず一旦見送ることとし、来年度以降、改めて県央以北の定時制・通信制のあり方について様々な観点から検討していくことが望ましいとの結論に達したものである。